

## 4 主な施設の状況

### (4) 産業系施設（大分類）

#### 1) 産業系施設（中分類）

##### ① 産業系施設の概要

産業系施設は、労働者の文化及び教養の向上並びに福祉の増進を図るため、苫小牧市労働福祉センターを設置し、また工業技術の高度化を促進し、産業の振興を図るため、苫小牧市テクノセンターを設置しています。

さらに勤労青少年の福祉の増進と教養の向上を図り、あわせて憩いの場とするため、勤労青少年ホームを設置しています。

しかし、昭和44年に設置した勤労青少年ホームは、近年の利用減少に加えて市内各地域に同じ機能を備えた公共施設や民間の施設が整備されてきていることから、市が実施する事業としての役割を終えたと判断し、指定管理期間が終了する平成25年度で廃止することが決定しています。

図表 3-86 施設一覧

施設名	住所	建築年	床面積 (㎡)	併設機能			
				窓口※ <sup>1</sup> 機能	貸室 施設	図書 施設	体育 施設
労働福祉センター	苫小牧市末広町1丁目15番7号	昭和51年	1,100	—	○	—	—
テクノセンター	苫小牧市柏原32番地6	平成10年	1,992	—	○	—	—
勤労青少年ホーム	苫小牧市旭町3丁目1番12号	昭和44年	1,583	—	○	—	—

窓口機能※<sup>1</sup>：市役所の市民生活部住民課で行っている「窓口業務」の一部手続きができます。

図表 3-87 施設配置図



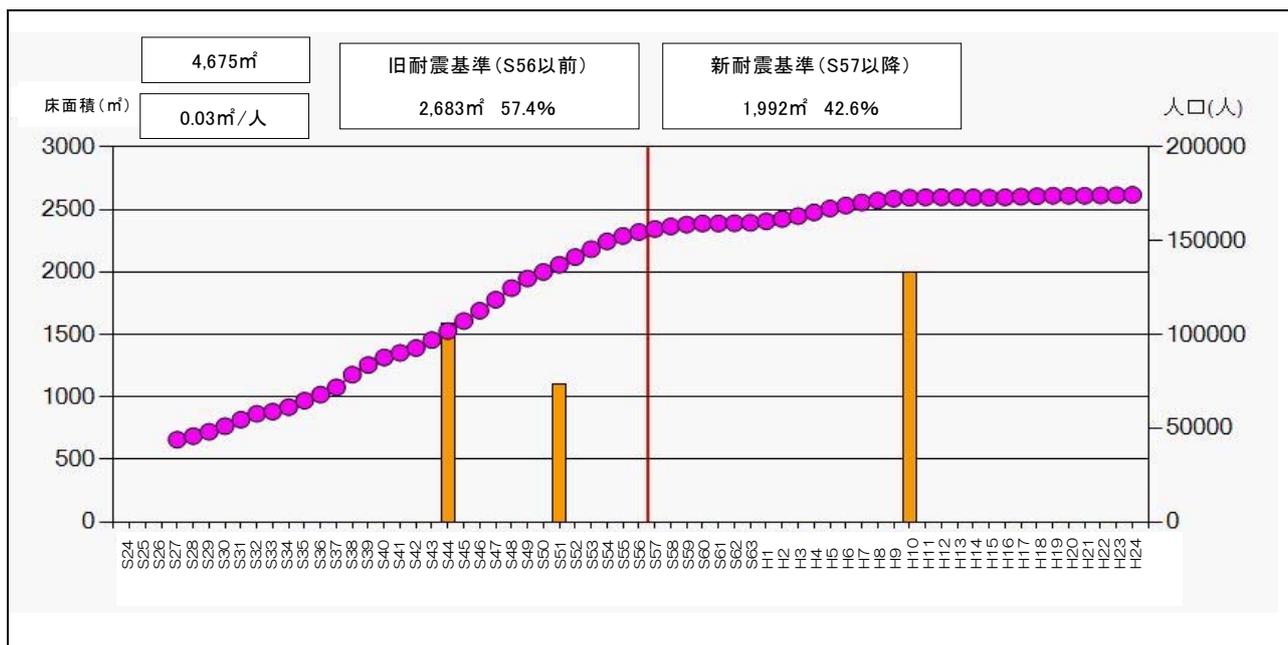
② 建設年度別整備状況

産業系施設の床面積は合計 5 千㎡です。

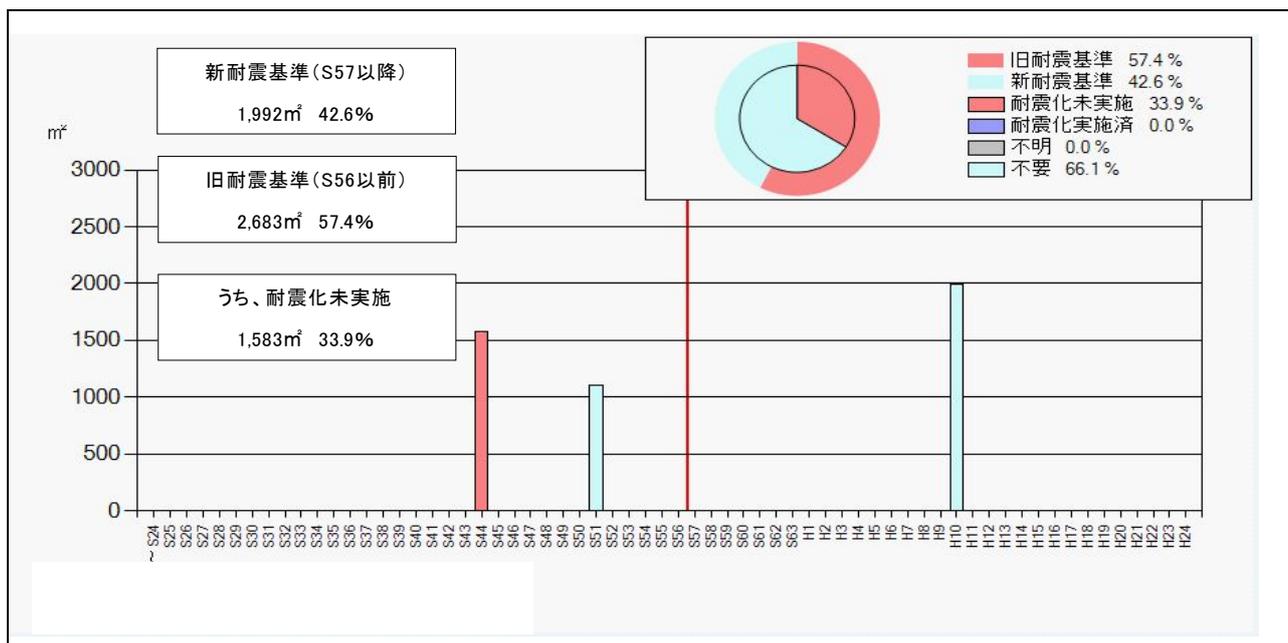
そのうち、旧耐震基準の建物は 2 施設 2 千 700 ㎡ (57%)、新耐震基準の建物は 1 施設 2 千㎡ (43%) となっています。

旧耐震基準の 2 施設のうち、労働福祉センターは耐震診断を行った結果「A 判定」となっています。

図表 3-88 建設年度別整備状況



図表 3-89 耐震化状況



③ 施設総合評価

産業系施設のうちテクノセンターは、津波浸水予想エリア外に立地しています。

なお、3施設とも避難所等には指定されていませんが、勤労青少年ホームには、入浴設備が設置されており、労働福祉センター及びテクノセンターは、非常電源設備、入浴設備ともに設置されていません。

労働福祉センターは、既に築30年を超えており、耐震診断の判定結果に関わらず老朽化が進んでいることから、計画的な対応策が必要となっています。

また、テクノセンターは、バリアフリーなどの計画的な整備が望まれます。

図表 3-90 施設立地状況

施設名	施設立地状況									
	建築年	経過年	建物床面積(m <sup>2</sup> )	一時指定の避難所有無	救援物資補完施設	津波浸水予想エリア外	建物階数	耐震診断(判定)	非常電源設備	入浴設備
労働福祉センター	昭和51年	36	1,100	×	×	×	2	A	×	×
テクノセンター	平成10年	14	1,992	×	×	○	2	A	×	×
勤労青少年ホーム	昭和44年	43	1,583	×	×	×	2	未	×	○

凡例：●＝一時避難所、■＝災害対策支部設置施設、○＝該当施設、×＝該当なし。  
(入浴設備とは、シャワー設備同等以上とする。)

図表 3-91 施設バリアフリー状況及び施設総合評価

施設名	施設バリアフリー状況								施設総合評価					
	建築年	経過年数	車椅子用エレベータ	多目的トイレ	車椅子用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	I 耐震化状況	II 老朽化状況	III バリアフリー状況	IV 稼動状況	V 運営状況	総合評価パターン
労働福祉センター	S51	36	×	×	×	○	○	×	3	2	2	1	3	D
テクノセンター	H10	14	○	○	○	○	×	×	3	3	2	2	2	C
勤労青少年ホーム	S44	43	×	×	○	×	×	×	1	2	1	1	2	A

バリアフリー記号：○＝対応、×＝未対応、－＝不要・該当なし、

図表 3-92 施設総合評価パターン図

	パターンA <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">耐震化</span>	パターンC <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">バリアフリー</span>	パターンD <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">稼働状況</span>
評	・耐震安全性が確保されていない ⇒早急な耐震安全性が必要な施設	・バリアフリー化が一部不十分 ⇒今後、バリアフリー化が不十分な部分の整備が望まれる施設	・稼働率が低下している ⇒稼働率の改善が必要な施設
価	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">優先_1</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">振分基準 I=1の施設</div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">優先_3</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">振分基準 パターンA~B以外で III=2の施設</div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">優先_4</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">振分基準 パターンA~C以外で IV=1の施設</div> </div>
当該施設	・勤労青少年ホーム	・テクノセンター	・労働福祉センター
コメント	・平成26年3月で閉鎖となります。	・バリアフリー化が一部不十分な部分について整備が必要になっています。	・ニーズリサーチを行い、事業内容を一新させるなどの改善が望まれます。

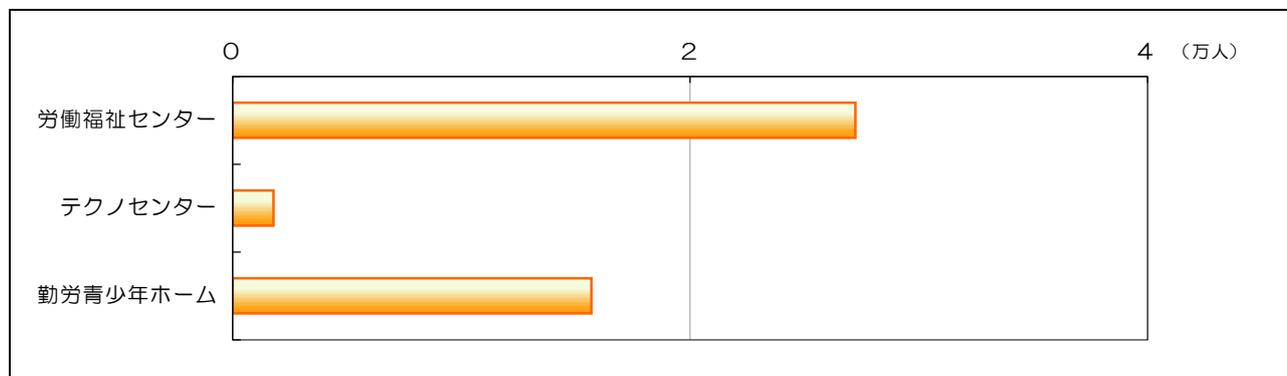
④ 施設の利用状況

産業系施設の年間利用者数は、3施設全体で4万5千人です。

労働福祉センターの年間利用者数は、2万7千人と最も多く、続いて勤労青少年ホームの1万6千人、テクノセンターの1千800人となっています。

なお、テクノセンターは、本市をはじめ苫小牧東部工業地帯へ誘致した企業への技術支援の重要な役割を担っています。

図表 3-93 施設年間利用者数



## ⑤ 運営状況

産業系施設は、テクノセンターを除く2施設が指定管理者により管理運営され、平成24年度維持管理費は7千万円です。

テクノセンターは、産業の振興と企業活動の技術支援を目的としていることから企業を対象にしています。

労働福祉センターや勤労青少年ホームは、市民を対象にしており、利用者一人当りの維持管理費は、勤労青少年ホームが高く、労働福祉センターの2倍以上となっています。

図表 3-94 施設年間維持管理費

施設名	床面積 (㎡)	開館日数 (年間)	利用者数 (人)	維持管理費 (千円)	利用者一人当りの 維持管理費 (円)	市民一人当りの 維持管理費 (円)
労働福祉センター	1,100	359	27,225	19,723	724	113
テクノセンター	1,992	244	1,781	28,719	16,125	165
勤労青少年ホーム	1,583	294	15,680	26,182	1,670	150
合計	4,675		44,686	74,624		

## ⑥ 検討の視点

- ・労働福祉センターは労働者の文化教養・福祉の施設として昭和51年に設置しています。
- ・テクノセンターは企業の技術の高度化促進と産業の振興を図る施設として設置しています。
- ・テクノセンターは、新耐震基準の建物となっています。
- ・労働福祉センターは耐震診断は「A判定」ですが、既に築35年を超えています。
- ・テクノセンターは、バリアフリーの計画的整備が望まれます。
- ・テクノセンターは、津波浸水予想エリア外に立地しています。
- ・労働福祉センターと勤労青少年ホームは、近隣に貸室(館)業務と同様な機能を持った施設が存在し、老朽化も進んでいます。
- ・勤労青少年ホームは平成25年度で廃止となります。

## 4 主な施設の状況

### (4) 産業系施設（大分類）

#### 1) 産業系施設・交流センター（中分類）

##### ① 産業系施設の概要

産業系施設のウトナイ交流センターは、道路利用者に対し良好な休息の場を提供しています。

地域情報の発信などによる市民と来訪者との交流の促進及び農産物その他の地場産品の販売などを通じ地域産業の振興を図り、地域社会の発展に寄与するために設置しています。

また、樽前交流センターは、農村と都市住民との交流を推進し、地域における市民の生活、文化及び教養の向上と福祉の増進を図り、活力のある地域社会の形成と農業の振興に寄与するため設置しています。



ウトナイ交流センター



樽前交流センター

図表 3-95 施設一覧

施設名	住所	建築年	床面積 (㎡)	併設機能			
				窓口 <sup>※1</sup> 機能	貸室 施設	図書 施設	体育 施設
ウトナイ交流センター	苫小牧市字植苗156番地30	平成21年	1,055	—	—	—	—
樽前交流センター	苫小牧市字樽前85番地	平成13年	420	—	○	—	—

窓口機能<sup>※1</sup>：市役所の市民生活部住民課で行っている「窓口業務」の一部手続きができます。

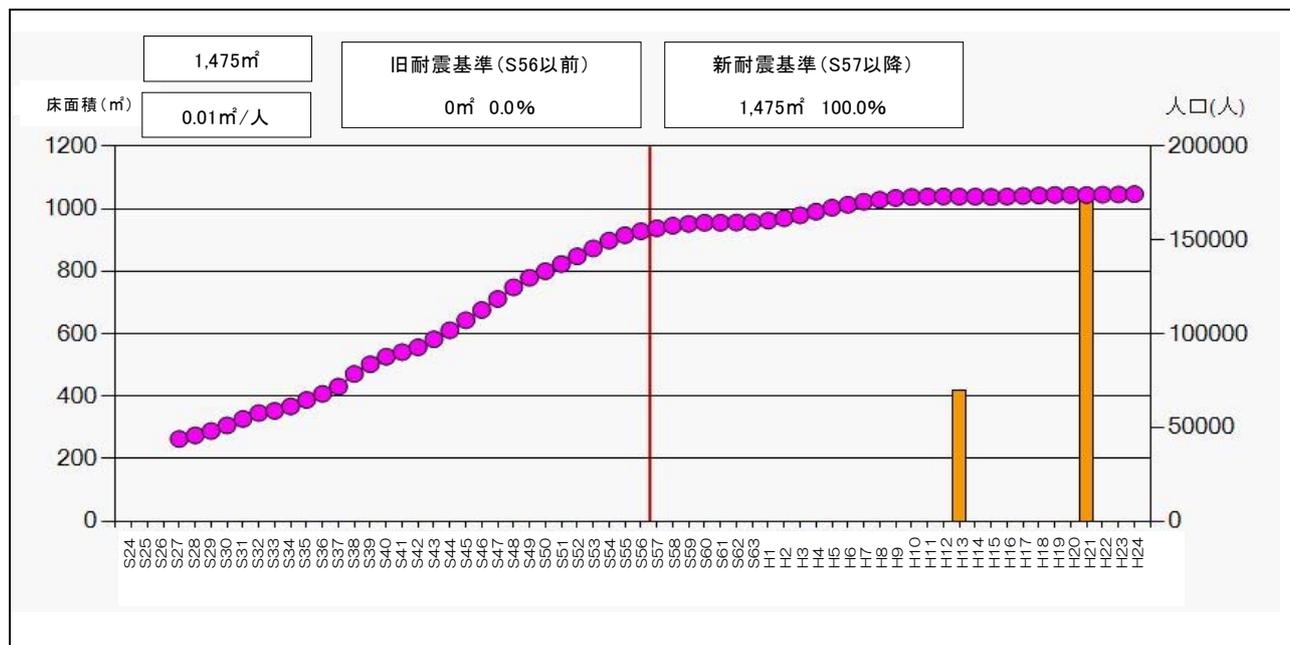
図表 3-96 施設配置図



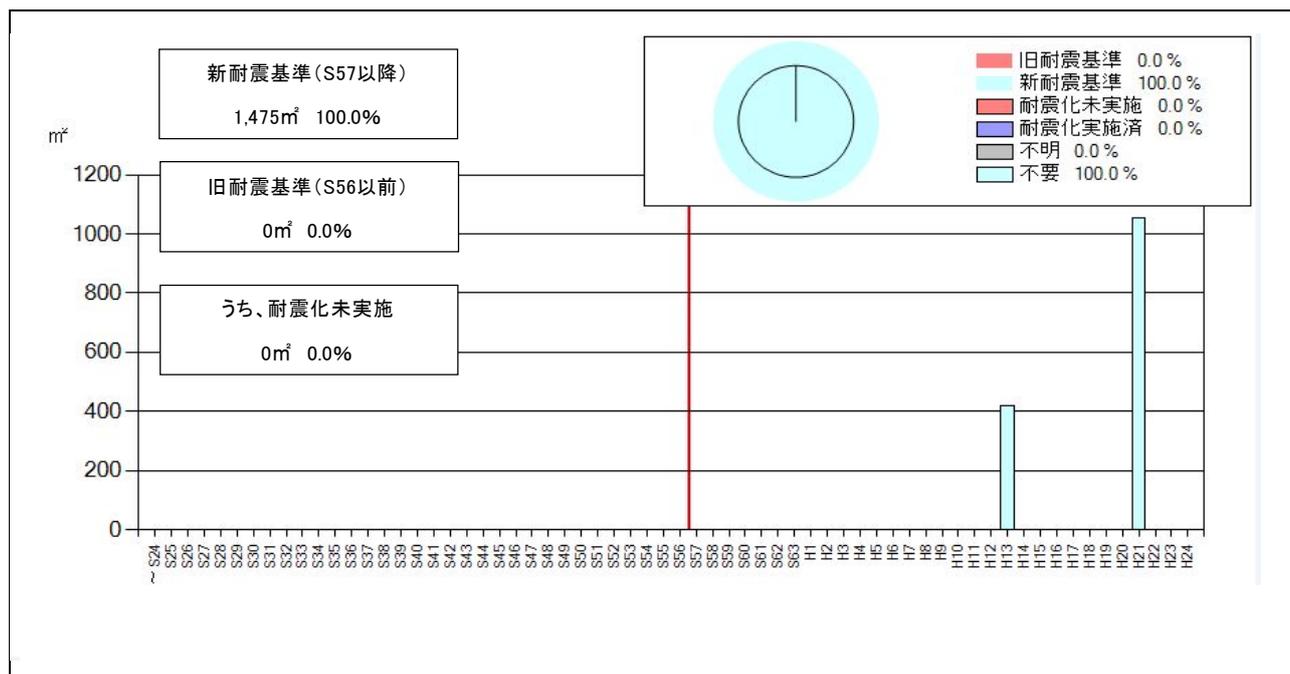
② 建設年度別整備状況

産業系施設の床面積は、合計 1 千 500 m<sup>2</sup>で 2 施設とも新耐震基準の建物となっています。

図表 3-97 建設年度別整備状況



図表 3-98 耐震化状況



③ 施設総合評価

産業系施設のウトナイ交流センターは、津波浸水予想エリア外に立地しています。  
樽前交流センターは、津波浸水予想エリア外に立地していないため、津波浸水時の避難体制の対応と、他の災害時の対応などが必要となる施設です。

なお、両施設とも避難所等には指定されていません。

また、樽前交流センターは、目立った老朽化は見られませんが、築10年以上を経過していることから、計画的な老朽化対策とともにバリアフリーと併せた計画的な整備が望まれます。

図表 3-99 施設立地状況

施設名	施設立地状況									
	建築年	経過年	建物床面積(m <sup>2</sup> )	一時指定の避難所有無	救済物資補完施設	津波浸水予想エリア外	建物階数	耐震診断(判定)	非常電源設備	入浴設備
ウトナイ交流センター	平成21年	3	1,055	×	×	○	1	A	×	×
樽前交流センター	平成13年	11	420	×	×	×	1	A	×	×

凡例：●=一時避難所、■=災害対策支部設置施設、○=該当施設、×=該当なし。  
(入浴設備とは、シャワー設備同等以上とする。)

図表 3-100 施設バリアフリー状況及び施設総合評価

施設名	施設バリアフリー状況								施設総合評価					
	建築年	経過年数	車椅子用エレベータ	多目的トイレ	車椅子用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	I 耐震化状況	II 老朽化状況	III バリアフリー状況	IV 稼働状況	V 運営状況	総合評価パターン
ウトナイ交流センター	H21	3	-	○	○	○	×	○	3	3	2	3	3	C
樽前交流センター	H13	11	-	○	○	○	×	×	3	3	2	1	3	D

バリアフリー記号：○=対応、×=未対応、- =不要・該当なし、

図表 3-101 施設総合評価パターン図

評価	パターンC バリアフリー	パターンD 稼動状況
	・バリアフリー化が一部不十分 ⇒今後、バリアフリー化が不十分な部分の整備が望まれる施設	・稼動率が低下している ⇒稼動率の改善が必要な施設
備	優先_3 振分基準 パターンA～B以外 でⅢ=2の施設 	優先_4 振分基準 パターンA～C以外 でⅣ=1の施設 
	・ウトナイ交流センター	・樽前交流センター
コメント	・バリアフリー化が一部不十分な部分について整備が必要になっています。	・事業内容を充実させるなどの改善が望まれます。

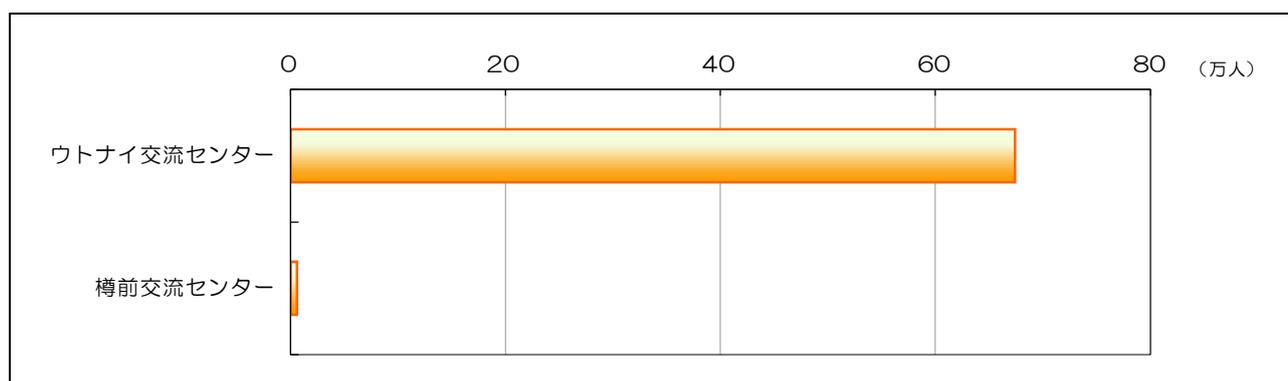
④ 施設の利用状況

産業系施設の年間利用状況は、2施設全体で68万人です。

ウトナイ交流センターは、道の駅として1日1,800人余りの多くの人に利用されています。

樽前交流センターは、地域に暮らす農業に従事する人やふるさと農園の利用者にも利用されています。

図表 3-102 施設年間利用者数



## ⑤ 運営状況

産業系施設の平成24年度維持管理費は、2千800万円です。

ウトナイ交流センターは、道の駅として地域の指定管理者が独立採算により運営しており、年間67万人の人が訪れる施設となっています。

また、樽前交流センターは、地域に暮らす人々と街中で暮らす人々とのコミュニティの場としても活用されています。

図表 3-103 施設年間維持管理費

施設名	床面積 (㎡)	開館日数 (年間)	利用者数 (人)	維持管理費 (千円)	利用者一人当りの 維持管理費 (円)	市民一人当りの 維持管理費 (円)
ウトナイ交流センター	1,055	362	674,089	25,939	38	149
樽前交流センター	420	272	6,264	2,214	353	13
合計	1,475	-	680,353	28,153	-	-

## ⑥ 検討の視点

- ・ 苫小牧市ウトナイ交流センターは、地域産業振興と地域社会発展のため設置しています。
- ・ 樽前交流センターは、農業従事者の交流推進と文化教養の向上のため設置しています。
- ・ 2施設とも新耐震基準の建物となっています。
- ・ 樽前交流センターは、築10年以上を経過していることから老朽化対策やバリアフリー設備の検討が望まれます。
- ・ ウトナイ交流センターは津波浸水予想エリア外に立地しています。
- ・ 樽前交流センターは津波浸水予想エリア外に立地していないため、津波浸水時の避難体制など災害時の対応に注意が必要です。
- ・ 両施設は、避難所等に指定されていません。
- ・ ウトナイ交流センターは、道の駅として多くの人に利用されています。
- ・ ウトナイ交流センターは、道の駅として独立採算による運営をしている施設です。
- ・ 樽前交流センターは、地域に暮らす住民等に活用されています。
- ・ 樽前交流センターは、苫小牧市ふるさと農園の利用者にも利用されています。
- ・ 樽前交流センターは、地域に暮らす人々のコミュニティの場として活用されています。

## 4 主な施設の状況

### (5) 学校教育系施設（大分類）

#### 1) その他教育施設（中分類）

##### ① その他教育施設の概要

教育センターは、教育に関する専門的な調査・研究及び教職員の研修を行うための機関です。

また、特別支援教育を担当する子ども支援室「あかり」、学校適応教室「あおば学級」が施設内にあります。

なお、平成21年度に旧市立総合病院南棟を改修した「教育・福祉センター」内の4階及び5階に設置しています。



図表 3-104 施設一覧

施設名	住所	建築年	床面積 (㎡)	併設機能			
				窓口※1 機能	貸室 施設	図書 施設	体育 施設
教育センター（教育・福祉センター）	苫小牧市本幸町1丁目2番21号	平成21年	2,146	—	○	—	—

窓口機能※1：市役所の市民生活部住民課で行っている「窓口業務」の一部手続きができます。

図表 3-105 施設配置図

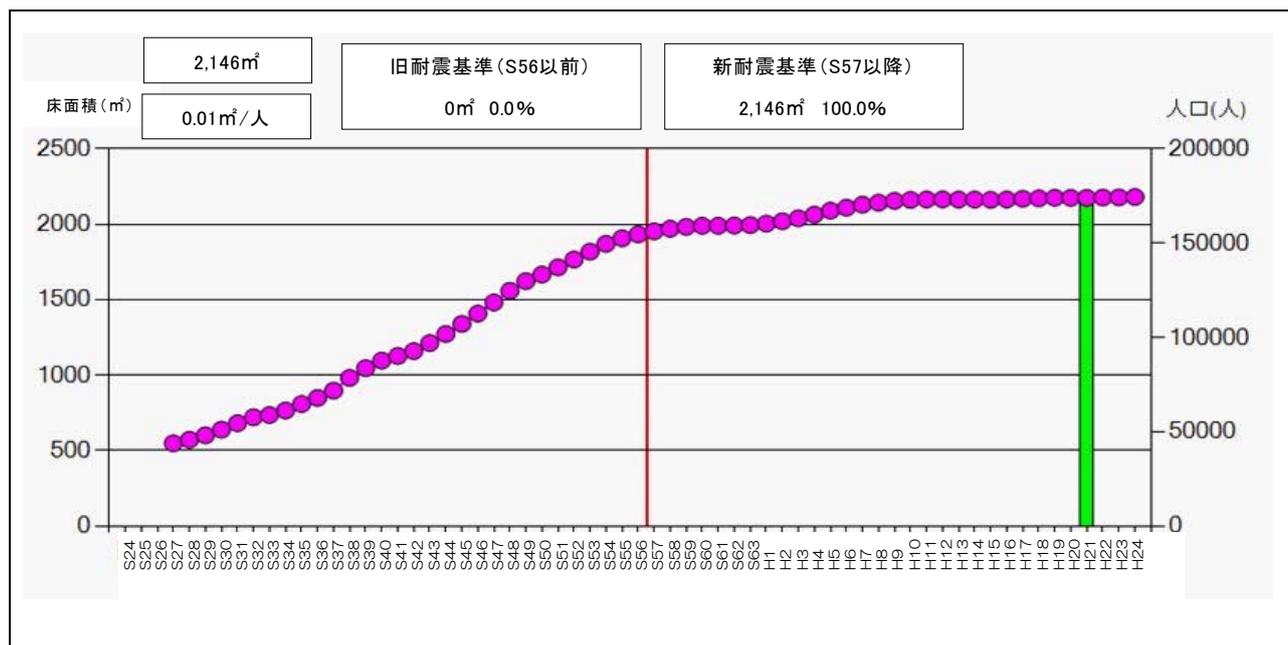


② 建設年度別整備状況

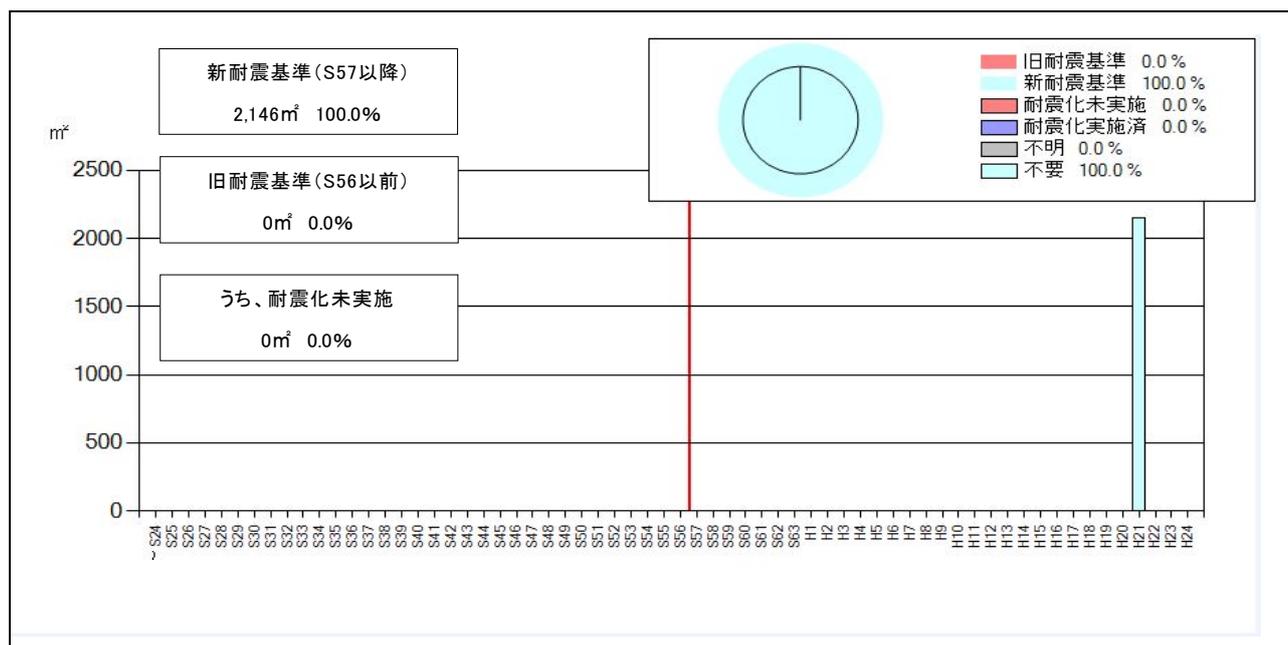
教育センターは、「教育・福祉センター」内に併設され、床面積は2千100㎡で施設全体の36%となっています。

他の併設施設を含めた全体の床面積は、合計6千㎡となります。

図表 3-106 建設年度別整備状況



図表 3-107 耐震化状況



③ 施設総合評価

教育センターは、平成21年度に旧市立総合病院の南棟を全面改修した鉄筋コンクリート造5階建の新耐震基準の複合施設内に設置しています。

津波浸水予想エリア外には立地していませんが、一時避難所・福祉避難所に指定されています。

なお、この施設には非常電源設備を備えていますが入浴設備は備えていません。

建物全体にわたる老朽化対策や建物の定期点検などについては、併設の各担当者と連携して進めることが望まれます。

図表 3-108 施設立地状況

施設名	施設立地状況									
	建築年	経過年	建物床面積(m <sup>2</sup> )	一時指定の避難所等無	救援物資補完施設	津波浸水予想エリア外	建物階数	耐震(判定)	非常電源設備	入浴設備
教育センター(教育・福祉センター)	平成21年	3	2,146	●	×	×	5	A	○	×

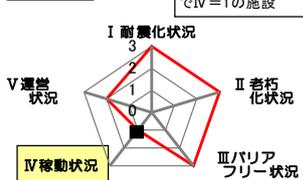
凡例：●＝一時避難所、■＝災害対策支部設置施設、○＝該当施設、×＝該当なし。  
(入浴設備とは、シャワー設備同等以上とする。)

図表 3-109 施設バリアフリー状況及び施設総合評価

施設名	施設バリアフリー状況								施設総合評価					
	建築年	経過年数	車椅子用エレベータ	多目的トイレ	車椅子用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	I 耐震化状況	II 老朽化状況	III バリアフリー状況	IV 稼働状況	V 運営状況	総合評価パターン
教育センター(教育・福祉センター)	H21	3	○	○	○	○	○	○	3	3	3	1	2	D

バリアフリー記号：○＝対応、×＝未対応、－＝不要・該当なし、

図表 3-110 施設総合評価パターン図

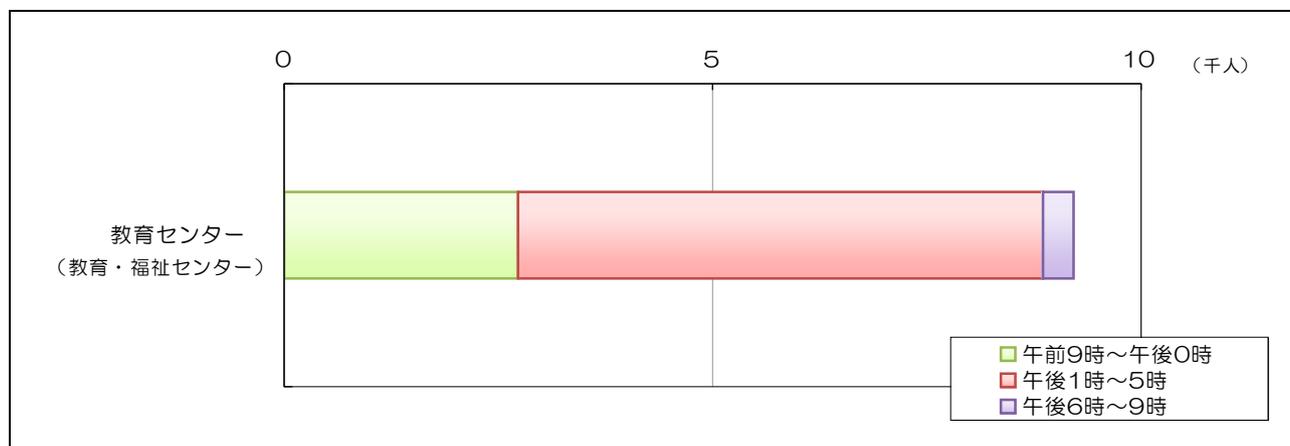
評 価	パターンD <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">稼動状況</span>
	・稼動率が低下している ⇒稼動率の改善が必要な施設
該 当 施 設	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">優先_4</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">振分基準 パターンA~C以外 でIV=1の施設</div> </div> 
	・教育センター (教育・福祉センター)
レ コ メ ン ト	・事業内容を充実させるなどの改善が望まれます。

④ 施設の利用状況

教育センターの平成 24 年度の利用者数は、9 千 200 人です。

また、一日当たり 38 人が利用していることになり、午後の利用者が最も多くなっています。

図表 3-111 施設時間帯別年間利用者数



## ⑤ 運営状況

教育センターの平成24年度維持管理費は2千200万円です。  
利用者一人当たりの維持管理費は、2千300円となっています。

図表 3-112 施設年間維持管理費

施設名	床面積 (㎡)	開館日数 (年間)	利用者数 (人)	維持管理費 (千円)	利用者一人当たりの 維持管理費 (円)	市民一人当たりの 維持管理費 (円)
教育センター(教育・福祉センター)	2,146	245	9,212	21,502	2,334	123
合計	2,146		9,212	21,502		

## ⑥ 検討の視点

- ・教育センターは、5階建の新耐震基準の複合施設内に設置しています。
- ・複合施設であり、建物全体の老朽化対策や定期点検を併設の各担当者と連携して、進めることが望まれます。
- ・津波浸水予想エリア外には立地していませんが、一時避難所・福祉避難所に指定されています。
- ・この施設には、非常電源設備を備えていますが、入浴設備を備えていません。
- ・平成24年度の利用者は9千200人で、午後の利用者が最も多くなっています。

## 4 主な施設の状況

### (5) 学校教育系施設（大分類）

#### 1) その他教育施設・学校給食施設（中分類）

##### ① その他教育施設の概要

学校給食は、昭和23年に児童の健全な発育と食生活の改善、向上をめざして小学校を対象に自校式給食として開始し、昭和43年に児童生徒数が1万4千人となったことから、学校給食の運用効果を高めるため、新富町に学校給食共同調理場を設置し中学校生徒も対象に完全給食を開始しています。

さらに、児童生徒の増加に対応することから昭和53年には、錦岡地区に第2学校給食共同調理場を建設し、小学校23校1万食、中学校16校5千200食の合計39校1万5千200食の学校給食を提供しています。

なお、第1学校給食共同調理場は、築44年を経過し、施設及び設備の老朽化が進んだことから、平成24年4月に柳町1丁目に移転新築しています。

図表 3-113 施設一覧

施設名	住所	建築年	床面積 (㎡)	併設機能			
				窓口※1 機能	貸室 施設	図書 施設	体育 施設
第1学校給食共同調理場	苫小牧市柳町1丁目3番5号	平成24年	4,412	-	-	-	-
第2学校給食共同調理場	苫小牧市のぞみ町2丁目7番3号	昭和53年	1,047	-	-	-	-

窓口機能※1：市役所の市民生活部住民課で行っている「窓口業務」の一部手続きができます。

図表 3-114 施設配置図

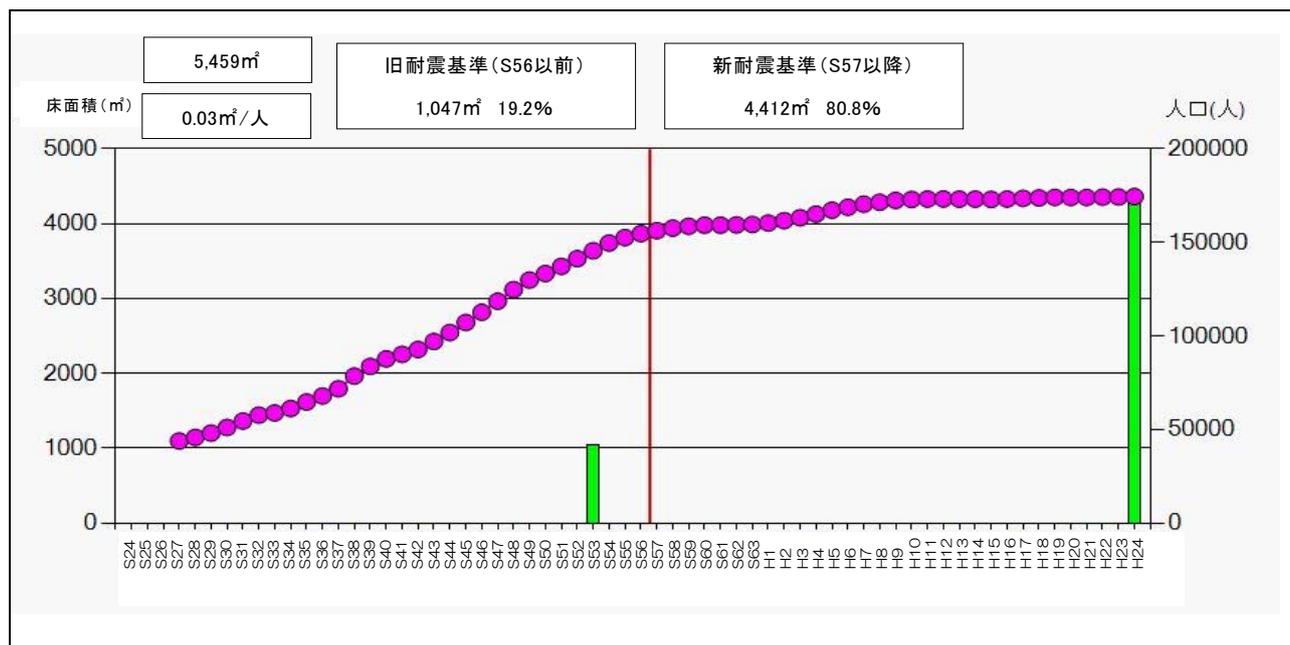


② 建設年度別整備状況

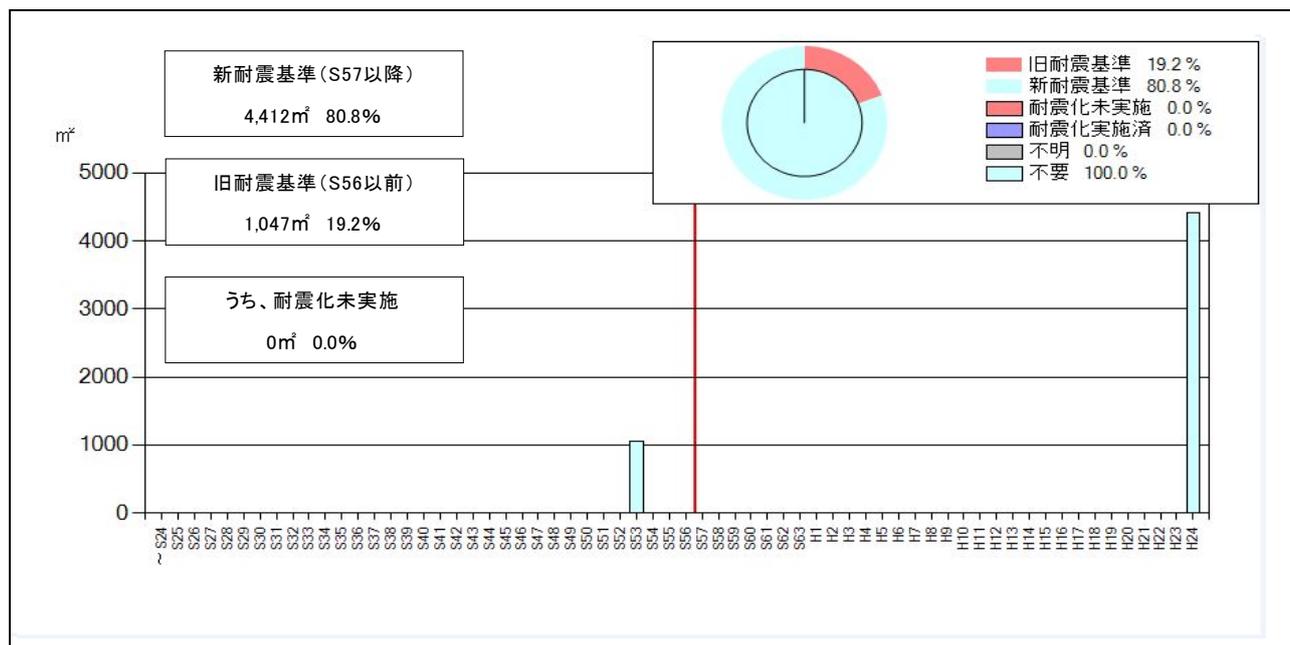
給食施設の2施設の床面積は、合計で5千㎡です。

そのうち、旧耐震基準の建物は第2学校給食共同調理場の1千㎡(19%)で、新耐震基準の建物は第1学校給食共同調理場の4千400㎡(81%)となっています。

図表 3-115 建設年度別整備状況



図表 3-116 耐震化状況



③ 施設総合評価

第1学校給食共同調理場及び第2学校給食共同調理場は、津波浸水予想エリア外に立地しています。

なお、両施設は、避難所等に指定されていませんが、災害時には物資食料対策部給食班として、炊き出しを行います。

また、第1学校給食共同調理場は、新しい建物のため老朽化は見られませんが、第2学校給食共同調理場は、既に築30年以上経過し老朽化が進んでおり、バリアフリー化とともに計画的な対策が望まれます。

図表 3-117 施設立地状況

施設名	施設立地状況									
	建築年	経過年	建物床面積(m <sup>2</sup> )	一時指定の避難所等	救援補完施設	津波浸水予想エリア外	建物階数	耐震(判定)	非常電源設備	入浴設備
第1学校給食共同調理場	平成24年	0	4,412	×	×	○	2	A	×	×
第2学校給食共同調理場	昭和53年	34	1,047	×	×	○	2	A	×	×

凡例：●=一時避難所、■=災害対策支部設置施設、○=該当施設、×=該当なし。  
(入浴設備とは、シャワー設備同等以上とする。)

図表 3-118 施設バリアフリー状況及び施設総合評価

施設名	施設バリアフリー状況								施設総合評価					
	建築年	経過年数	車椅子用エレベータ	多目的トイレ	車椅子用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	I 耐震化状況	II 老朽化状況	III バリアフリー状況	IV 稼働状況	V 運営状況	総合評価パターン
第1学校給食共同調理場	H24	0	○	○	○	○	○	○	3	3	3	3	3	優
第2学校給食共同調理場	S53	34	×	×	×	×	○	×	3	2	1	2	3	C

バリアフリー記号：○=対応、×=未対応、- =不要・該当なし、

図表 3-119 施設総合評価パターン図

評 価	問題なし	パターンC <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">バリアフリー</span>
		・バリアフリー化が一部不十分 ⇒今後、バリアフリー化が不十分な部分の整備が望まれる施設
該 当 施 設		<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">優先_3</span> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">                     振分基準                      パターンA～B以外で                      III=1の施設                 </div>
	・第1学校給食共同調理場	・第2学校給食共同調理場
コ メ ン ト	・平成24年に開設しており、特に問題ありません。	・バリアフリー化が一部不十分な部分の整備が望めます。また、築30年を超えており、老朽化対策と合わせた計画的な整備が必要になります。

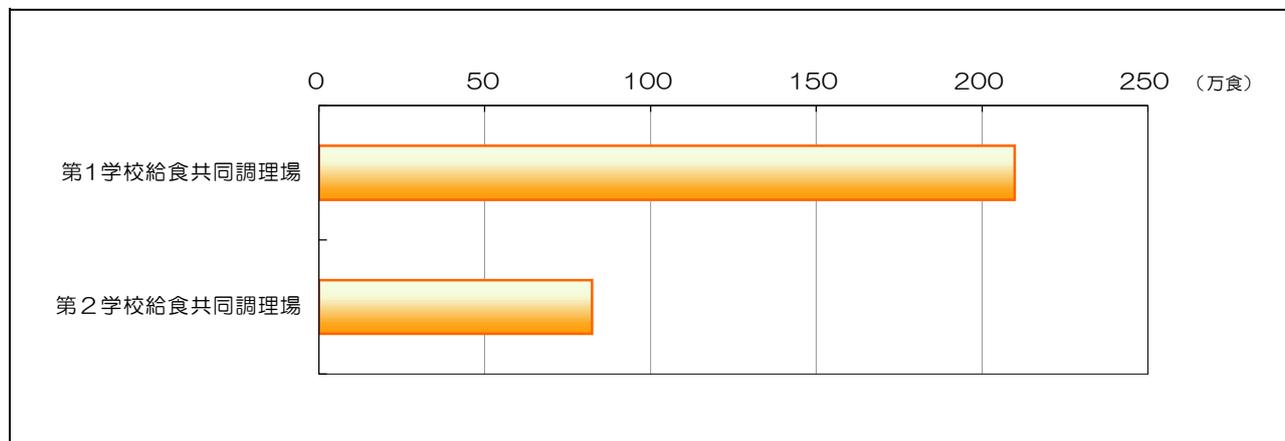
④ 施設の利用状況

学校給食共同調理場は、2施設で平成24年度は291万食を供給しています。

第1学校給食共同調理場では、1日当たり1万1千食の供給能力のうち、平均1万300食を供給しています。

また、第2学校給食共同調理場では、1日当たり7千500食の供給能力のうち平均4千食を供給しています。

図表 3-120 施設年間給食数



## ⑤ 運営状況

学校給食共同調理場2施設の平成24年度年間維持管理費は、5億5千万円です。  
一食当りの維持管理費は、第1学校給食共同調理場が145円で、第2学校給食共同調理場は298円となっています。

図表 3-121 施設年間維持管理費

施設名	床面積 (㎡)	開館日数 (年間)	年間給食数 (食)	維持管理費 (千円)	給食一食当りの 維持管理費 (円)	市民一人当りの 維持管理費 (円)
第1学校給食共同調理場	4,412	204	2,091,175	303,921	145	1,742
第2学校給食共同調理場	1,047	204	822,828	244,954	298	1,404
合計	5,459		2,914,003	548,875		

## ⑥ 検討の視点

- ・第2学校給食共同調理場は、昭和53年に設置しています。
- ・第1学校給食共同調理場は平成24年4月に移転新築しています。
- ・小学校23校、中学校16校の全39校に1万8千500食の供給能力を持っています。
- ・第2学校給食共同調理場は、旧耐震基準の建物で既に築30年以上経過しており、老朽化も進んでいます。
- ・両施設共に津波浸水予想エリア外に立地し、避難所等には指定されていません。
- ・災害時には、物資食料対策部給食班として、炊き出しを行います。
- ・第1学校給食共同調理場は、1万1千食のうち平均1万300食を供給しています。
- ・第2学校給食共同調理場は、7千500食のうち平均4千食を供給しています。

## 4 主な施設の状況

### (6) 子育て支援施設（大分類）

#### 1) 幼保・こども園施設（中分類）

##### ① 幼稚園施設の概要

はなその幼稚園は、昭和34年北光町に「市立苫小牧幼稚園」として設置しています。

その後、幼稚園児の増加により昭和48年大成町に「大成分園」を設置し運営していましたが、平成3年に少子化と社会環境の変化に伴い、両園を統合し「市立はなその幼稚園」として運営しています。

さらに、人口減少による幼稚園児の激減により、55年の歴史をもつはなその幼稚園は、平成26年3月31日をもって閉園することとなっています。



はなその幼稚園

図表 3-122 施設一覧

施設名	住所	建築年	床面積 (㎡)	併設機能			
				窓口※ <sup>1</sup> 機能	貸室 施設	図書 施設	体育 施設
はなその幼稚園	苫小牧市花園町2丁目11番15号	平成3年	945	—	0	0	0

窓口機能<sup>※1</sup>：市役所の市民生活部住民課で行っている「窓口業務」の一部手続きができます。

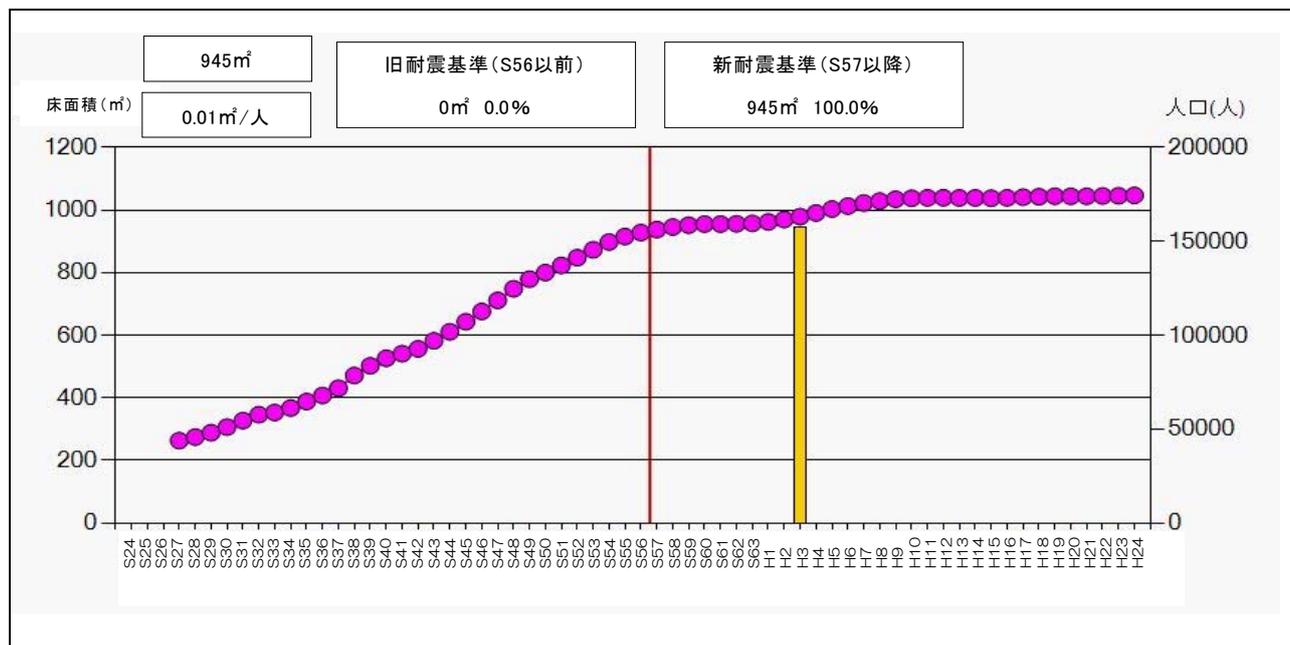
図表 3-123 施設配置図



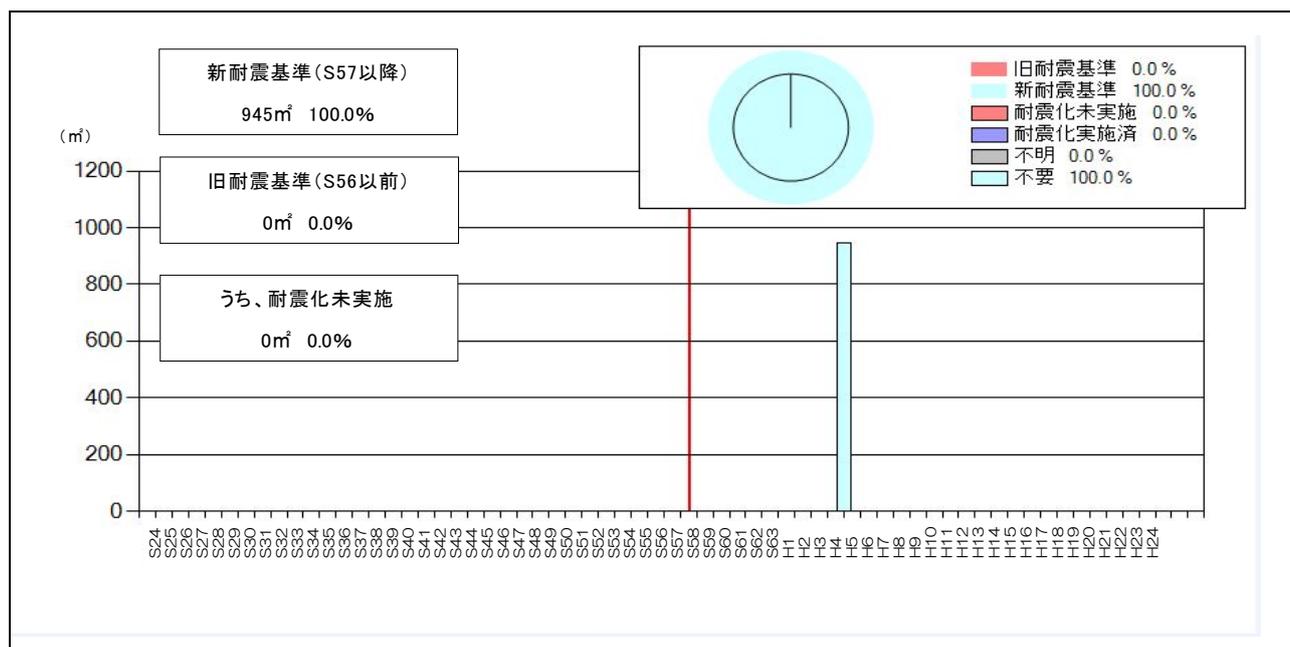
② 建設年度別整備状況

はなその幼稚園は、新耐震基準の建物で平成4年に現在地へ移転新築し、築20年が経過しています。

図表 3-124 建設年度別整備状況



図表 3-125 耐震化状況



③ 施設総合評価

はなその幼稚園は、津波浸水予想エリア外に立地していますが、避難所等には指定されていません。

はなその幼稚園は、バリアフリー設備に不十分な部分が散見されます。

図表 3-126 施設立地状況

施設名	施設立地状況									
	建築年	経過年	建物床面積(m <sup>2</sup> )	一時指定の避難所等無	救援補完施設	津波エリア外浸水予想	建物階数	耐震(判定)	非常電源設備	入浴設備
はなその幼稚園	平成3年	21	945	×	×	○	1	A	×	×

凡例：●=一時避難所、■=災害対策支部設置施設、○=該当施設、×=該当なし。  
(入浴設備とは、シャワー設備同等以上とする。)

図表 3-127 施設バリアフリー状況及び施設総合評価

施設名	施設バリアフリー状況							施設総合評価						
	建築年	経過年数	車椅子用エレベータ	多目的トイレ	車椅子用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	I 耐震化状況	II 老朽化状況	III バリアフリー状況	IV 稼働状況	V 運営状況	総合評価パターン
はなその幼稚園	H3	21	-	×	○	×	×	×	3	3	1	2	1	C

バリアフリー記号：○=対応、×=未対応、- =不要・該当なし、

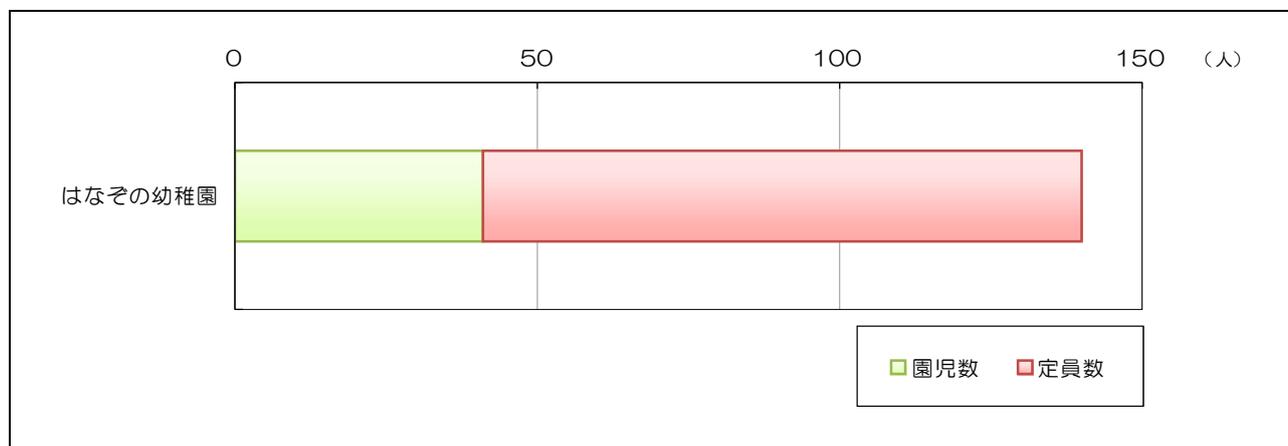
図表 3-128 施設総合評価パターン図

評価	パターンC バリアフリー
	・バリアフリー化が不十分 ⇒バリアフリー化が不十分な部分の整備が望まれる施設
優先	優先_3 振分基準 パターンA～B以外 でⅢ=1の施設
該当施設	・はなその幼稚園
コメント	・平成26年3月31日 閉園します。

④ 施設の利用状況

はなその幼稚園は、2年制で定員 140 人のところ、平成 24 年度の園児は 41 人で充足率は、30%に満たない状況となっています。

図表 3-129 施設利用状況



## ⑤ 運営状況

はなその幼稚園の平成24年度維持管理費は、4千400万円です。  
園児一人当りの維持管理費は、107万円となっています。

図表 3-130 施設年間維持管理費

施設名	床面積 (㎡)	開館日数 (年間)	利用者数 (人)	維持管理費 (千円)	利用者一人当りの 維持管理費 (円)	市民一人当りの 維持管理費 (円)
はなその幼稚園	945	209	41	43,701	1,065,883	251
合計	945		41	43,701		

## ⑥ 検討の視点

- ・市立はなその幼稚園は、統廃合により平成3年に設置しています。
- ・定員140人のところ、平成24年度の園児は41人となっています。
- ・平成26年3月31日をもって閉園することとなっています。
- ・市立はなその幼稚園は、津波浸水予想エリア外に立地しています。
- ・今後の施設活用についての検討が急がれます。

## 4 主な施設の状況

### (6) 子育て支援施設（大分類）

#### 2) 幼児・児童施設（中分類）

##### ① 子育て支援施設の概要

子育て支援センターは、子どもたちが健やかに育つための支援やひとり親世帯等のサポートを必要とする人に、生活の安定と自立を支援する目的でやまて保育園、あけの保育園、錦岡保育園の3園に子育てルームとして併設しています。

市内4か所目となる「とまこまい子育て支援センター」は、平成21年度に旧市立総合病院南棟を改修した「教育・福祉センター」内に設置しています。

この施設は、親子が自由に利用できるプレイルームや親子ふれあいルームのほか、子育てサークル活動の場として無料で利用（要予約）できる子育てサークルルームなどがあり、子育ての不安や悩みなどについての相談に対応しています。



図表 3-131 施設一覧

施設名	住所	建築年	床面積 (㎡)	併設機能			
				窓口※1 機能	貸室 施設	図書 施設	体育 施設
子育て支援センター（教育・福祉センター）	苫小牧市本幸町1丁目2番21号	平成21年	873	—	○	—	—

窓口機能※1：市役所の市民生活部住民課で行っている「窓口業務」の一部手続きができます。

図表 3-132 施設配置図

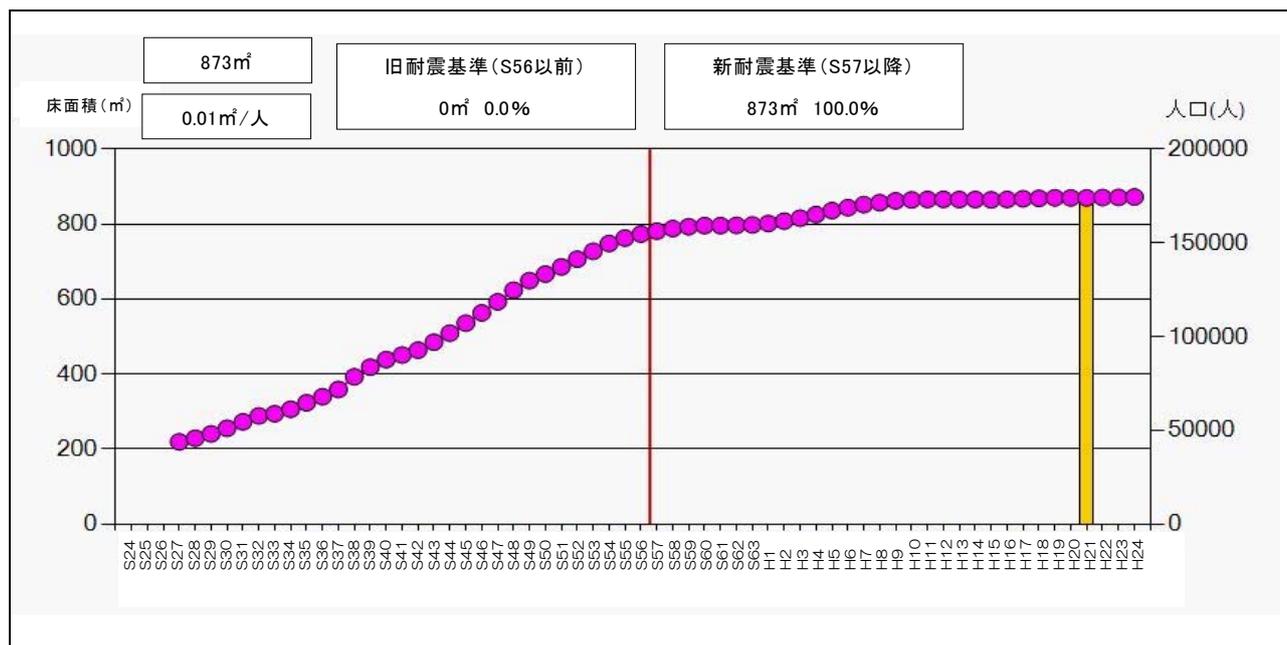


② 建設年度別整備状況

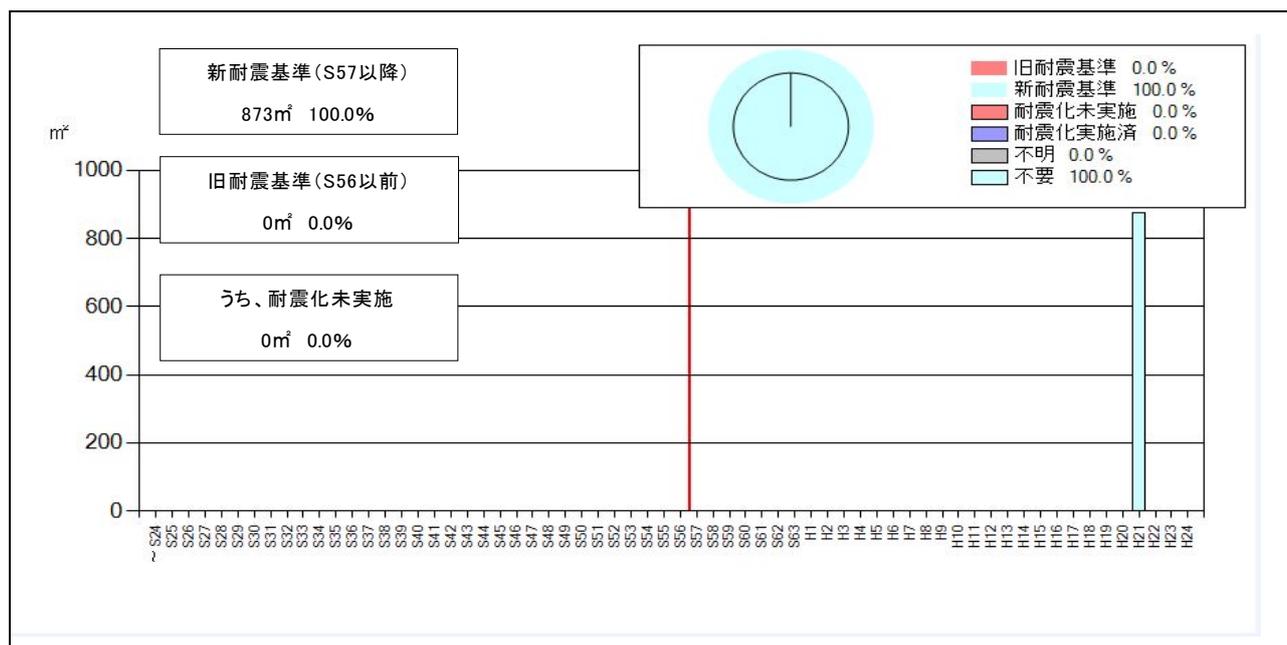
子育て支援センターは、「教育・福祉センター」内に併設され、床面積は900㎡で施設全体の15%となっています。

他の併設施設を含めた全体の床面積は、合計6千㎡となります。

図表 3-133 建設年度別整備状況



図表 3-134 耐震化状況



③ 施設総合評価

子育て支援センターは、平成21年度に旧市立総合病院の南棟を全面改修した鉄筋コンクリート造5階建の新耐震基準の複合施設内に設置しています。

津波浸水予想エリア外には立地していませんが、一時避難所に指定されています。

なお、この施設には、非常電源設備を備えていますが、入浴設備は備えていません。

建物全般にわたる老朽化対策や建物の定期点検等については、併設の各担当者と連携して進めることが望まれます。

図表 3-135 施設立地状況

施設名	施設立地状況									
	建築年	経過年	建物床面積(m <sup>2</sup> )	一時指定の避難所等	救済補完施設	津波浸水予想	建物階数	耐震(診断)	非常電源設備	入浴設備
子育て支援センター(教育・福祉センター)	平成21年	3	873	●	×	×	5	A	○	×

凡例：●＝一時避難所、■＝災害対策支部設置施設、○＝該当施設、×＝該当なし。  
(入浴設備とは、シャワー設備同等以上とする。)

図表 3-136 施設バリアフリー状況及び施設総合評価

施設名	施設バリアフリー状況								施設総合評価					
	建築年	経過年数	車椅子用エレベーター	多目的トイレ	車椅子用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	I 耐震化状況	II 老朽化状況	III バリアフリー状況	IV 稼働状況	V 運営状況	総合評価パターン
子育て支援センター(教育・福祉センター)	H21	3	○	○	○	○	○	○	3	3	3	1	3	D

バリアフリー記号：○＝対応、×＝未対応、－＝不要・該当なし、

図表 3-137 施設総合評価パターン図

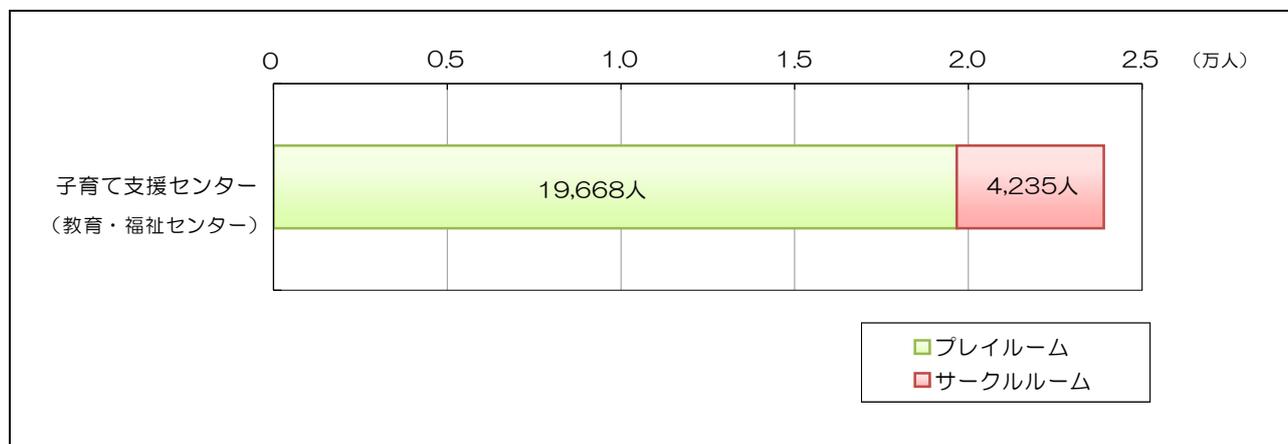
評 価	パターンD <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">稼動状況</span>
	・稼動率が低下している ⇒稼動率の改善が必要な施設
備	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">優先_4</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">振分基準 パターンA~C以外 でIV=1の施設</div> </div>
	・子育て支援センター (教育・福祉センター)
コ メ ン ト	・事業内容を充実させるなどの改善が望まれます。

④ 施設の利用状況

子育て支援センターの平成 24 年度の利用者数は、2 万 4 千人です。

また、1 日に 82 人が利用していることとなり、プレイルームの利用者数は 80% を超えています。

図表 3-138 施設年間利用者数



## ⑤ 運営状況

子育て支援センターの平成24年度維持管理費は、1千500万円です。  
また、利用者一人当りの維持管理費は、637円となっています。

図表 3-139 施設年間維持管理費

施設名	床面積 (㎡)	開館日数 (年間)	利用者数 (人)	維持管理費 (千円)	利用者一人当りの 維持管理費 (円)	市民一人当りの 維持管理費 (円)
子育て支援センター(教育・福祉センター)	873	292	23,903	15,226	637	87
合計	873		23,903	15,226		

## ⑥ 検討の視点

- ・平成21年度、市内4か所目の施設として設置しています。
- ・子育て支援センターは5階建の新耐震基準の複合施設内に設置しています。
- ・複合施設であり建物全体の老朽化対策や定期点検を併設の各担当者と連携して進めることが望まれます。
- ・津波浸水予想エリア外には立地していませんが、一時避難所に指定されています。
- ・この施設には、非常電源設備を備えていますが、入浴設備を備えていません。
- ・この施設の年間利用者は、2万4千人です。

## 4 主な施設の状況

### (6) 子育て支援施設（大分類）

#### 2) 幼児・児童施設・児童センター（中分類）

##### ① 児童センター施設の概要

児童センターは、健全な遊びや運動を通して児童の健康を増進し情操を豊かにするために設置し、人とのかかわりや社会性を学ぶ場で、豊かな心とからだを育てることを目的として設置しています。

児童センターは、市内各地区に1館6センターの合計7施設を設置しています。



西弥生児童館



住吉児童センター



大成児童センター



日新児童センター



沼ノ端児童センター



あさひ児童センター



錦岡児童センター

図表 3-140 施設一覧

施設名	住所	建築年	床面積 (㎡)	併設機能			
				窓口※1 機能	貸室 施設	図書 施設	体育 施設
西弥生児童館	苫小牧市弥生町2丁目2番12号	昭和56年	286	—	—	○	○
住吉児童センター	苫小牧市住吉町2丁目5番17号	平成6年	411	—	○	○	○
大成児童センター	苫小牧市大成町2丁目3番8号	昭和47年	380	—	—	○	○
日新児童センター	苫小牧市日新町3丁目6番15号	平成9年	411	—	○	○	○
沼ノ端児童センター	苫小牧市沼ノ端中央4丁目10番34号	平成11年	420	—	○	○	○
あさひ児童センター	苫小牧市旭町2丁目3番24号	昭和48年	674	—	○	○	○
錦岡児童センター	苫小牧市宮前町2丁目29番20号	平成22年	498	—	○	○	○

窓口機能※1：市役所の市民生活部住民課で行っている「窓口業務」の一部手続きができます。

図表 3-141 施設配置図

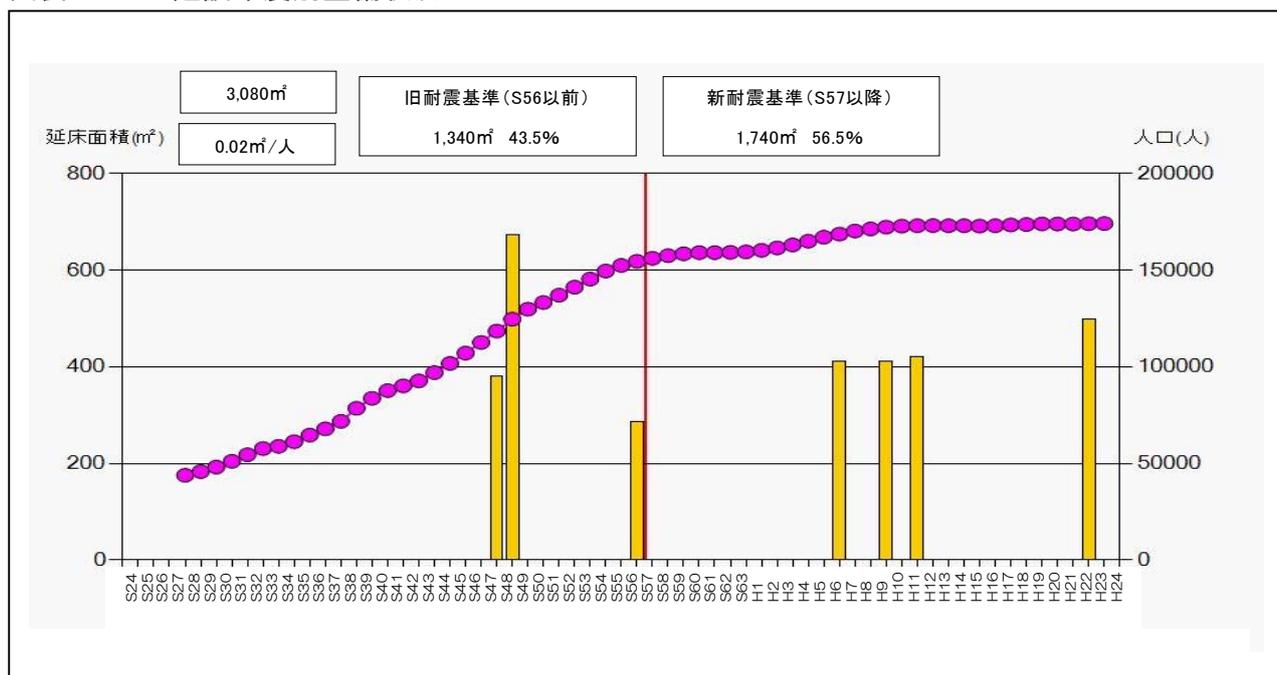


② 建設年度別整備状況

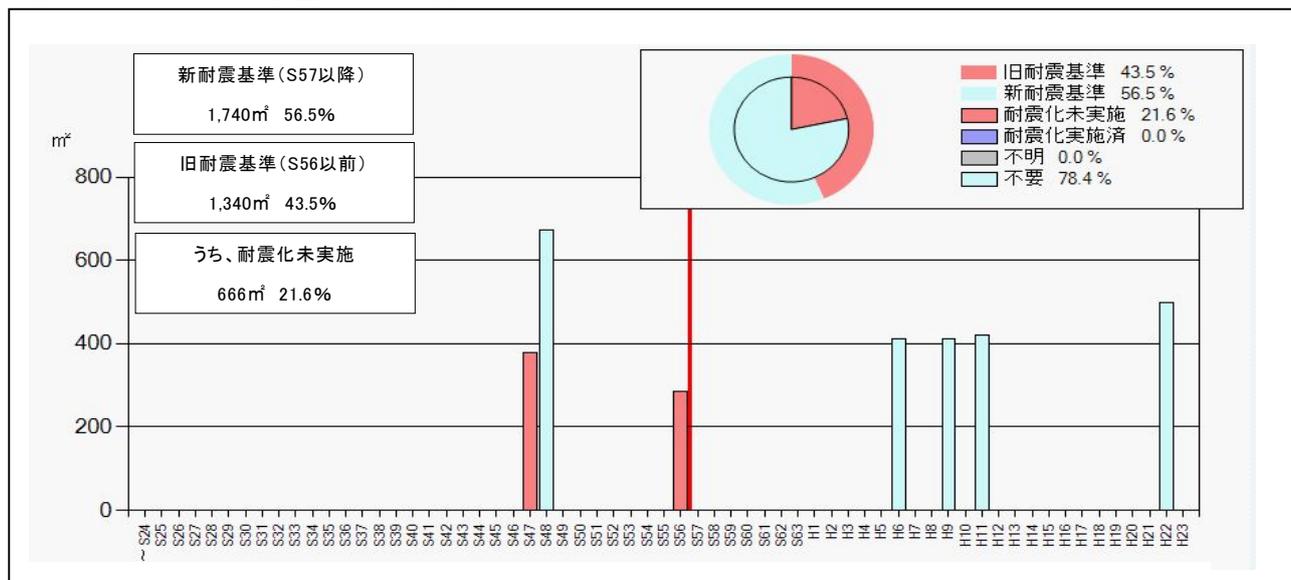
児童センターの床面積は合計 3 千㎡です。そのうち、旧耐震基準の建物は 3 施設 1 千 300 ㎡ (44%)、新耐震基準の建物は 4 施設 1 千 700 ㎡ (56%) となっています。

なお、旧耐震基準 3 施設のうち西弥生児童館と大成児童センターの 2 施設を統合し、新たに大成児童センターを新築し、平成 26 年 4 月に開設することになっています。

図表 3-142 建設年度別整備状況



図表 3-143 新旧耐震基準公共施設状況



③ 施設総合評価

7施設の各児童センターのうち、住吉児童センターと日新児童センターは、津波浸水予想エリア外に立地しています。

また、7施設は避難所等に指定されておらず、非常電源設備や入浴設備はありません。

西弥生児童館、大成児童センター、あさひ児童センターは、旧耐震基準の建物で既に30年以上経過しています。

また、他の新耐震基準4施設のうち錦岡児童センターを除く3施設も既に築10年以上経過し、老朽化対策やバリアフリー設備についての計画的な整備が望まれます。

図表 3-144 施設立地状況

施設名	施設バリアフリー状況							施設総合評価						
	建築年	経過年数	車椅子用エレベータ	多目的トイレ	車椅子用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	I 耐震化状況	II 老朽化状況	III バリアフリー状況	IV 稼働状況	V 運営状況	総合評価パターン
西弥生児童館	S56	31	-	X	X	X	X	X	1	2	1	2	2	A
住吉児童センター	H6	18	-	O	O	X	X	X	3	3	2	2	2	C
大成児童センター	S47	40	-	X	X	X	X	X	1	2	1	2	3	A
日新児童センター	H9	15	-	O	O	X	X	X	3	2	2	2	3	B
沼ノ端児童センター	H11	13	-	X	O	X	X	X	3	2	1	2	2	C
あさひ児童センター	S48	39	-	O	O	X	X	X	1	2	2	2	2	A
錦岡児童センター	H22	2	-	O	O	X	X	O	3	3	2	2	3	C

バリアフリー記号 : O=対応、X=未対応、- =不要・該当なし、

図表 3-145 施設バリアフリー状況及び施設総合評価

施設名	施設バリアフリー状況								施設総合評価					
	建築年	経過年数	車椅子用エレベータ	多目的トイレ	車椅子用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	I 耐震化状況	II 老朽化状況	III バリアフリー状況	IV 稼働状況	V 運営状況	総合評価パターン
西弥生児童館	S56	31	-	X	X	X	X	X	1	2	1	2	2	A
住吉児童センター	H6	18	-	O	O	X	X	X	3	3	2	2	2	C
大成児童センター	S47	40	-	X	X	X	X	X	1	2	1	2	3	A
日新児童センター	H9	15	-	O	O	X	X	X	3	2	2	2	3	B
沼ノ端児童センター	H11	13	-	X	O	X	X	X	3	2	1	2	2	C
あさひ児童センター	S48	39	-	O	O	X	X	X	1	2	2	2	2	A
錦岡児童センター	H22	2	-	O	O	X	X	O	3	3	2	2	3	C

バリアフリー記号 : O=対応、 X=未対応、 - =不要・該当なし、

図表 3-146 施設総合評価パターン図

評価	パターンA 耐震化	パターンA 耐震化	パターンA 耐震化	パターンB 今後 老朽化
	評価	<p>・耐震安全性が確保されていない ⇒早急な耐震安全性の確保が必要な施設</p> <p>優先_1</p> <p>振分基準 I=1の施設</p>	<p>・耐震安全性が確保されていない ⇒早急な耐震安全性の確保が必要な施設</p> <p>優先_1</p> <p>振分基準 I=1の施設</p>	<p>・耐震安全性が確保されていない ⇒早急な耐震安全性の確保が必要な施設</p> <p>優先_1</p> <p>振分基準 I=1の施設</p>
該当施設	・西弥生児童館	・大成児童センター	・あさひ児童センター	・日新児童センター
コメント	・平成25年度現在、大成児童センターと統廃合により建替え工事を進めています。	・平成25年現在、西弥生児童館と統廃合により建替え工事を進めています。	・築40年近くを経過しており、老朽化対策やバリアフリー化を含めた大規模改修が望まれます。	・築10年を超えており、計画的な老朽化対策の検討が必要になります。

	パターンC バリアフリー	パターンC バリアフリー	パターンC バリアフリー
評価	・バリアフリー化が一部不十分 ⇒今後、バリアフリー化が不十分な部分の整備が望まれる施設	・バリアフリー化が不十分 ⇒バリアフリー化が不十分な部分の整備が望まれる施設	・バリアフリー化が一部不十分 ⇒今後、バリアフリー化が不十分な部分の整備が望まれる施設
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">優先_3</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-top: 5px;">振分基準 パターンA～B以外 Ⅲ=2の施設</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">優先_3</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-top: 5px;">振分基準 パターンA～B以外 でⅢ=1の施設</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">優先_3</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-top: 5px;">振分基準 パターンA～B以外 でⅢ=2の施設</div>
該当施設	・住吉児童センター	・沼ノ端児童センター	・錦岡児童センター
コメント	・バリアフリー化が一部不十分な部分について整備が必要になっていません。	・バリアフリー化が不十分な部分について整備が必要になっていません。	・バリアフリー化が一部不十分な部分について整備が必要になっていません。

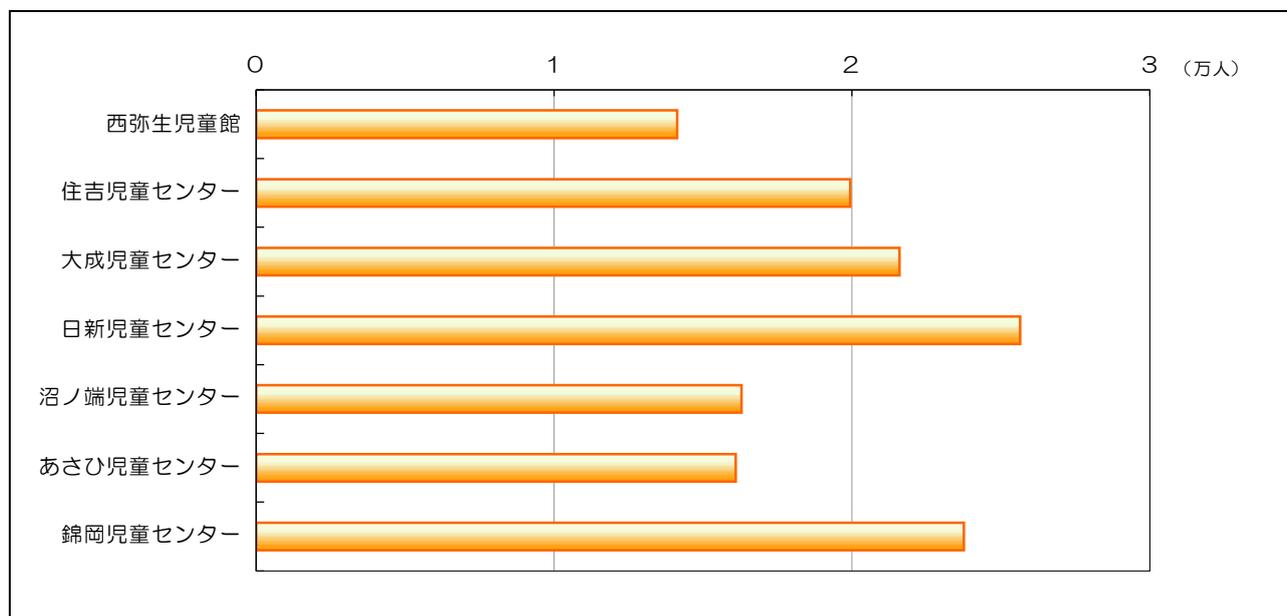
④ 施設の利用状況

各児童センター施設の平成24年度利用者数は、合計13万7千人です。

そのうち利用人数が最も多い施設は、日新児童センターで1日88人が利用し、最も少ない西弥生児童館の1.8倍の利用者数となっています。

なお、7施設全体の平均利用人数は、1日当たり67人となっています。

図表 3-147 施設年間利用者数



## ⑤ 運営状況

児童センター施設の平成24年度維持管理費は、1億6千万円です。

あさひ児童センターは、利用者一人当りの維持管理費が1千900円で、日新児童センターの2倍を越えており、運営方法等の対応策の検討が必要と思われます。

図表 3-148 施設年間維持管理費

施設名	床面積 (㎡)	開館日数 (年間)	利用者数 (人)	維持管理費 (千円)	利用者一人当りの 維持管理費 (円)	市民一人当りの 維持管理費 (円)
西弥生児童館	286	292	14,134	21,754	1,539	125
住吉児童センター	411	292	19,938	21,425	1,075	123
大成児童センター	380	293	21,590	20,885	967	120
日新児童センター	411	293	25,644	21,457	837	123
沼ノ端児童センター	420	292	16,298	21,621	1,327	124
あさひ児童センター	674	293	16,098	30,749	1,910	176
錦岡児童センター	498	293	23,760	23,599	993	135
合計	3,080		137,462	161,490		

## ⑥ 検討の視点

- ・児童センターは、児童の健康増進と健全な遊びや運動を通して、人とのかかわりや社会性を学ぶ場で豊かな心とからだを育てることを目的として設置しています。
- ・7施設の合計床面積3千㎡のうち、旧耐震基準3施設で1千300㎡、新耐震基準は4施設で1千700㎡となっています。
- ・旧耐震基準施設の大成児童センターと西弥生児童館を統廃合し、平成26年4月新たな施設として開設します。
- ・旧耐震基準のあさひ児童センターは、既に築30年以上経過しています。
- ・新耐震基準の4施設も築10年以上経過している施設が3施設となっています。
- ・いずれの施設も老朽化対策やバリアフリー整備についての計画が急がれます。
- ・津波浸水予想エリア外に立地しているのは、住吉と日新児童センターの2施設です。
- ・7施設全ての施設には、非常電源設備や入浴設備がありません。
- ・平成24年度の年間利用者数は7施設合計で14万人です。
- ・7施設全体の平均利用人数は一施設一日当たり67人です。
- ・利用者数が最も多い施設は、日新児童センターで2万6千人です。
- ・利用者数が最も少ない施設が西弥生児童館で1万4千人です。
- ・施設の維持管理運営費は、平成24年度の7施設合計で1億6千万円です。

## 4 主な施設の状況

### (7) 保健・福祉施設（大分類）

#### 1) 障害福祉施設（中分類）

##### ① 障害福祉施設の概要

心身障がい者（児）とその家族の福祉の増進と教養の向上及び健康の維持とそれに伴う体育の普及を目的として心身障害者福祉センターを設置しています。

さらに、心身障がい者に対する作業及び生活の指導等の事業を実施する場を提供することにより心身障がい者の自立促進と福祉の向上を図るため、心身障害者自立支援センターを豊川町に設置しています。



心身障害者福祉センター



心身障害者自立支援センター

図表 3-149 施設一覧

施設名	住所	建築年	床面積 (㎡)	併設機能			
				窓口※1 機能	貸室 施設	図書 施設	体育 施設
心身障害者福祉センター	苫小牧市旭町2丁目1番11号	昭和52年	2,681	—	○	—	○
心身障害者自立支援センター	苫小牧市豊川町3丁目26番11号	平成3年	436	—	—	—	—

窓口機能※1：市役所の市民生活部住民課で行っている「窓口業務」の一部手続きができます。

図表 3-150 施設配置図

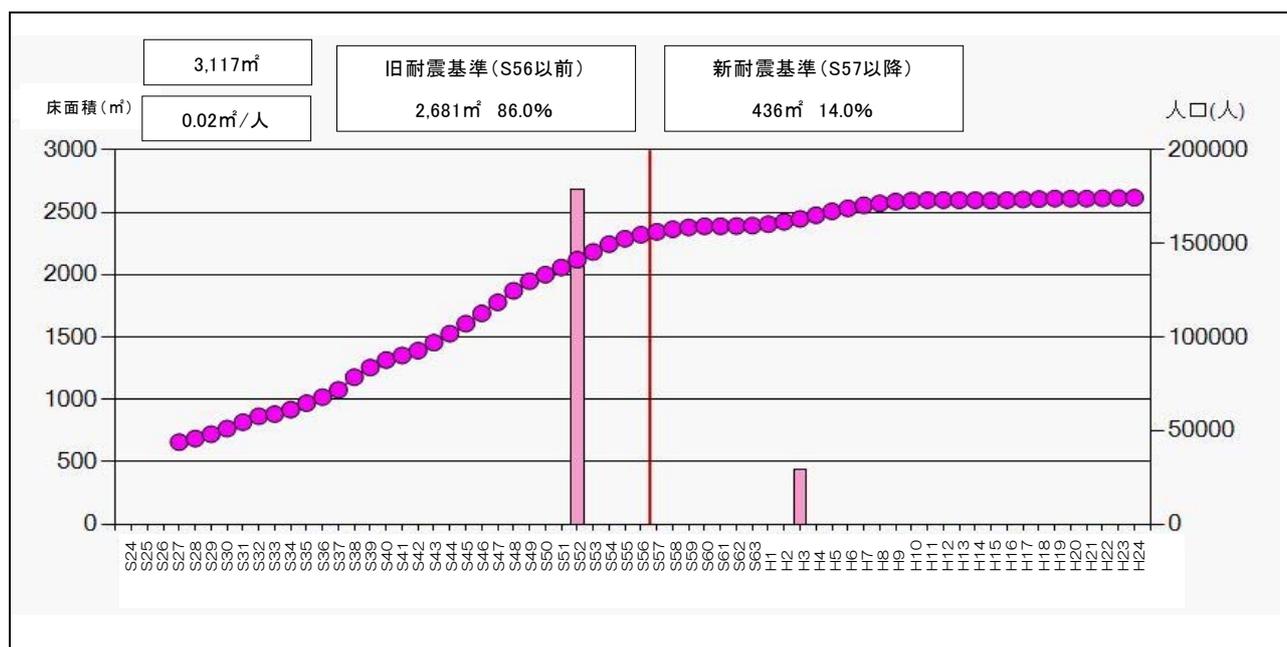


② 建設年度別整備状況

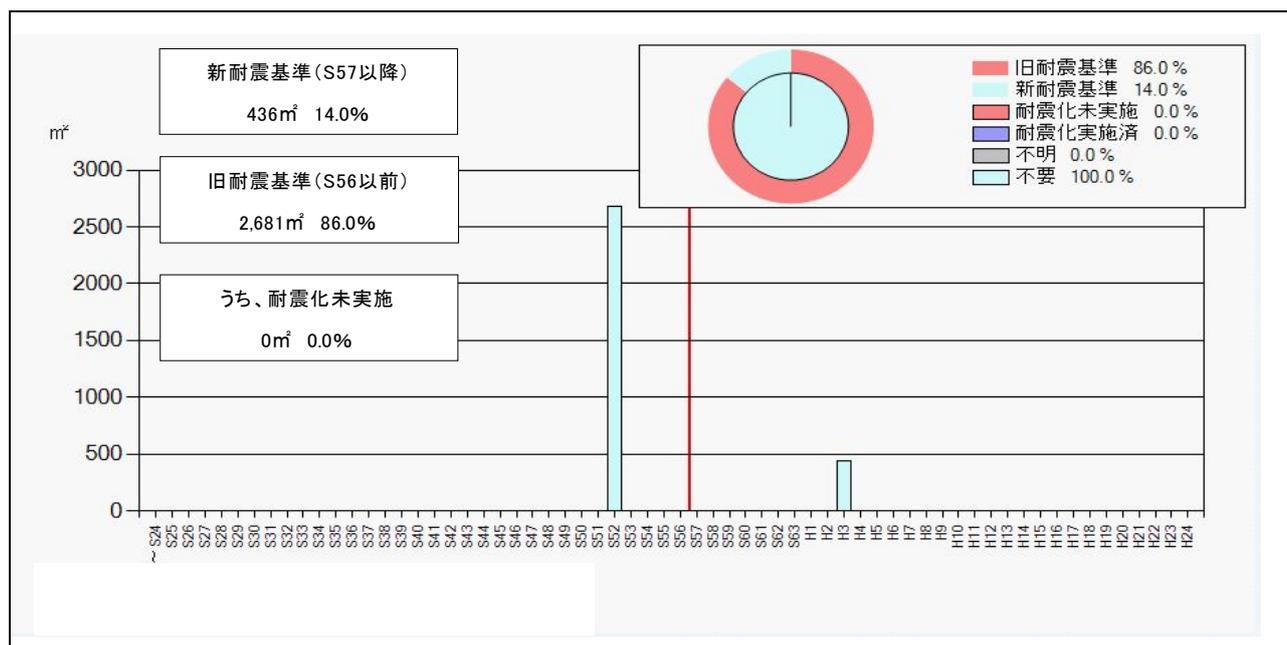
障害福祉施設の床面積は、合計 3 千㎡です。

そのうち心身障害者福祉センターは旧耐震基準施設で 2 千 700 ㎡（86%）、一方心身障害者自立支援センターは新耐震基準施設で 400 ㎡（14%）となっています。

図表 3-151 建設年度別整備状況



図表 3-152 耐震化状況



③ 施設総合評価

心身障害者福祉センターは、津波浸水予想エリア外に立地しておらず、非常用電源設備及び入浴設備は備えられていません。

心身障害者自立支援センターは、津波浸水予想エリア外に立地し、入浴設備及び非常電源設備は備えられていません。

いずれの施設も避難所等には指定されていませんが、福祉施設として防災や避難対策についての検討が望めます。

心身障害者福祉センターは、築35年が経過し耐震性にも不安があるため、大規模改修や建替を視野に、老朽化及びバリアフリー設備を含めた対応策の検討が望めます。

また、心身障害者自立支援センターは、平成3年8月建設の民間の建物を譲り受け、平成10年に開設し築21年を経過しており、老朽化対策やバリアフリーの対策について、検討する時期に来ていると思われます。

図表 3-153 施設立地状況

施設名	施設立地状況									
	建築年	経過年	建物床面積(m <sup>2</sup> )	一時指定の避難所有無	救済補完物資	津波浸水予想エリア外	建物階数	耐震診断(判定)	非常電源設備	入浴設備
心身障害者福祉センター	昭和52年	35	2,681	×	×	×	2	B	×	×
心身障害者自立支援センター	平成3年	21	436	×	×	○	2	A	×	×

凡例：●=一時避難所、■=災害対策支部設置施設、○=該当施設、×=該当なし。  
(入浴設備とは、シャワー設備同等以上とする。)

図表 3-154 施設バリアフリー状況及び施設総合評価

施設名	施設バリアフリー状況								施設総合評価					
	建築年	経過年数	車椅子用エレベータ	多目的トイレ	車椅子用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	I 耐震化状況	II 老朽化状況	III バリアフリー状況	IV 稼働状況	V 運営状況	総合評価パターン
心身障害者福祉センター	S52	35	×	○	○	○	○	○	2	2	3	2	2	A
心身障害者自立支援センター	H3	21	×	○	×	×	○	×	3	2	2	2	3	B

バリアフリー記号：○=対応、×=未対応、- =不要・該当なし、

図表 3-155 施設総合評価パターン図

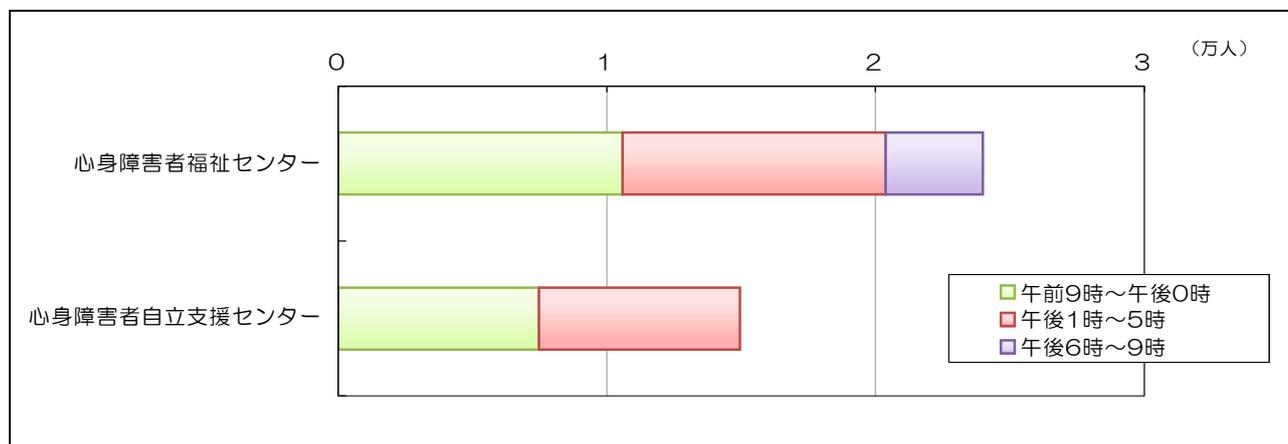
評価	パターンA <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">耐震化</span>	パターンB <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">今後 老朽化</span>
	・耐震安全性に不安がある ⇒今後、計画的な耐震安全性の確保が必要な施設	・老朽化が進んでいる ⇒今後、老朽化対策が必要な施設
該当施設	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">優先_1</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">振分基準 パターンAで I = 2の施設</div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">優先_2</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">振分基準 パターンA以外 で II = 2の施設</div> </div>
	・心身障害者福祉センター	・心身障害者自立支援センター
コメント	・築30年を超えており、施設の目的や機能、方向性についての検討とともに耐震改修の検討が必要と思われます。	・築20年を超えており、老朽化対策の検討が必要な時期になってきています。

④ 施設の利用状況

障害福祉施設の年間利用者数は、合計 3 万 9 千人です。

そのうち心身障害者福祉センターは、年間利用者数が2万4千人で1日当たり70人の利用で、心身障害者自立支援センターは、年間利用者数が1万5千人で1日当たり59人の利用となっています。

図表 3-156 施設時間帯別年間利用者数



## ⑤ 運営状況

障害福祉施設の平成24年度維持管理費は、1億6千万円です。

心身障害者福祉センターは、利用者一人当たりの維持管理費が7千円となっていますが、障がい者のための重要な施設であり、施設の在り方、方向性などの検討を深め総合的な対応が望まれます。

図表 3-157 施設年間維持管理費

施設名	床面積 (㎡)	開館日数 (年間)	利用者数 (人)	維持管理費 (千円)	利用者一人当たりの 維持管理費 (円)	市民一人当たりの 維持管理費 (円)
心身障害者福祉センター	2,681	343	23,994	160,151	6,675	918
心身障害者自立支援センター	436	253	14,946	55	4	-
合計	3,117		38,940	160,206		

## ⑥ 検討の視点

- ・心身障害者の福祉の増進、教養の向上及び自立の促進を図るために設置しています。
- ・心身障害者福祉センターは昭和52年に設置しています。
- ・心身障害者自立支援センターは平成10年に設置しています。
- ・心身障害者福祉センターは、耐震診断が「B判定」で築35年が経過しているため、老朽化及びバリアフリー設備を含めた対応策の検討が望まれます。
- ・心身障害者福祉センターは、津波浸水予想エリア外に立地していません。
- ・心身障害者自立支援センターは、津波浸水予想エリア外に立地しています。
- ・両施設とも非常電源設備・入浴設備は備えておりません。

## 4 主な施設の状況

### (7) 保健・福祉施設（大分類）

#### 2) 高齢福祉施設（中分類）

##### ① 高齢福祉施設の概要

高齢者福祉センターは、永い間社会の進展に尽くされた60歳以上の高齢者の教養の向上及び健康の保持増進のため、健康相談や生活相談などを目的に設置しています。

なお、高齢者福祉センターは、平成21年度に旧市立総合病院南棟を改修した「教育・福祉センター」内に設置しています。



図表 3-158 施設一覧

施設名	住所	建築年	床面積 (㎡)	併設機能			
				窓口※1 機能	貸室 施設	図書 施設	体育 施設
高齢者福祉センター（教育・福祉センター）	苫小牧市本幸町1丁目2番21号	平成21年	1,696	—	○	○	○

窓口機能※1：市役所の市民生活部住民課で行っている「窓口業務」の一部手続きができます。

図表 3-159 施設配置図

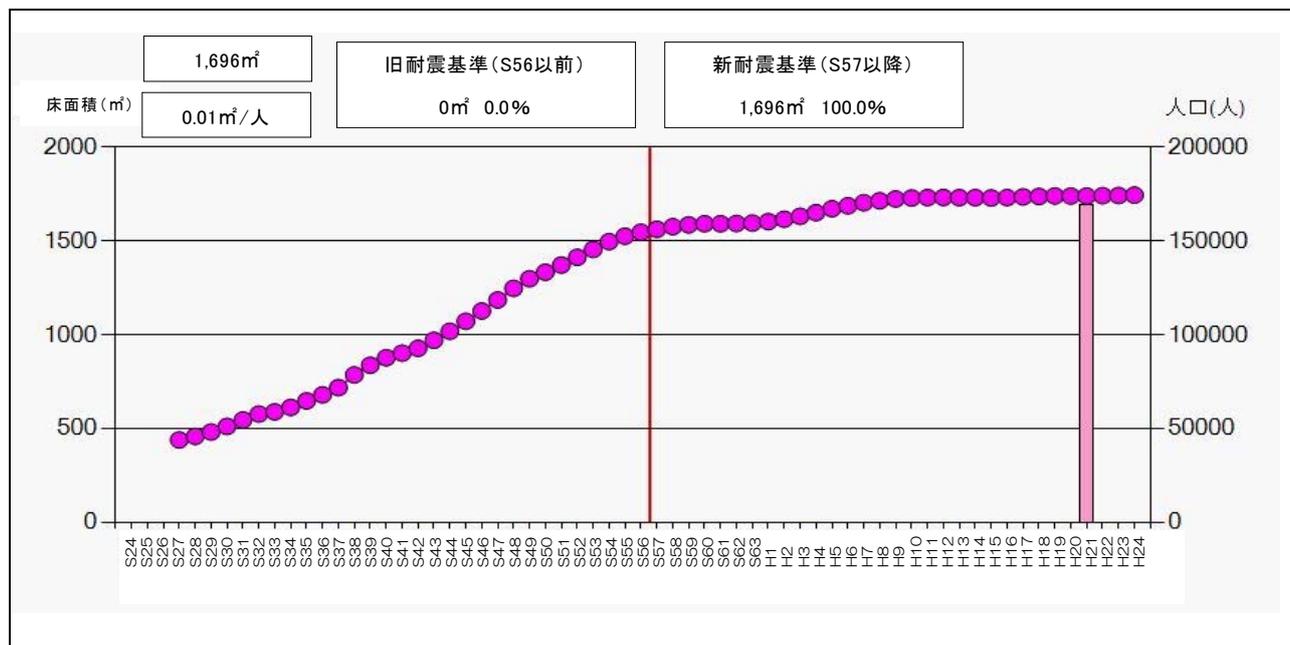


② 建設年度別整備状況

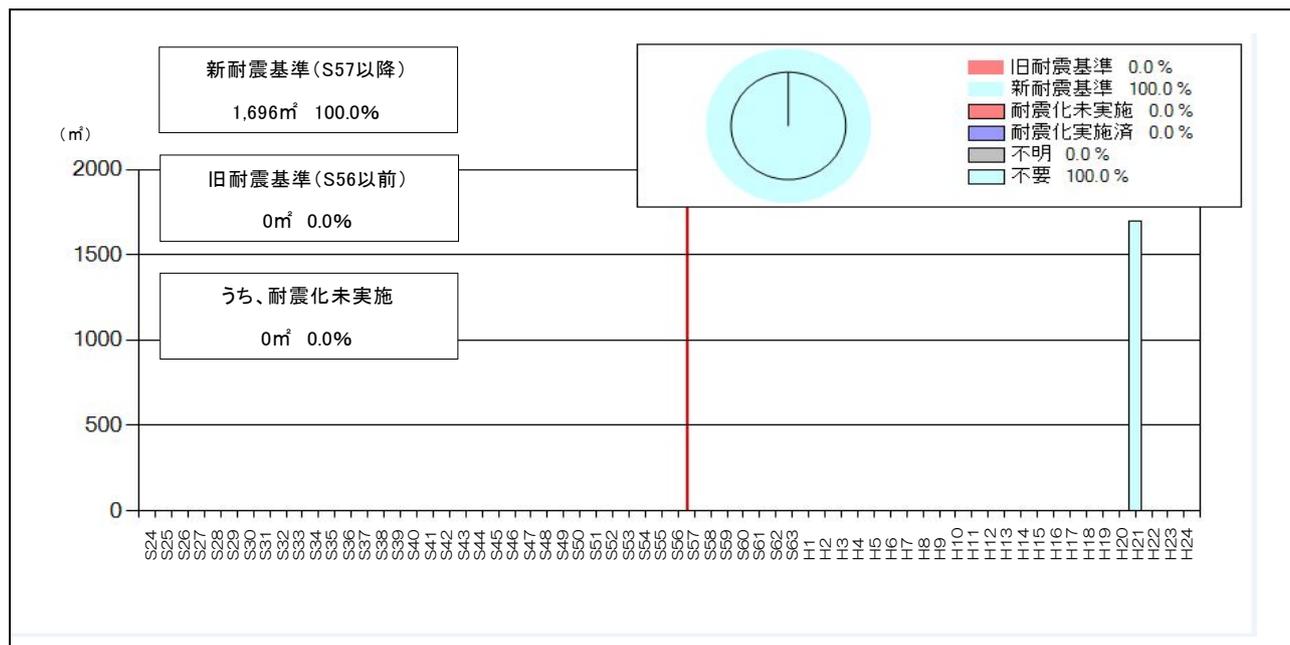
高齢者福祉センターは、「教育・福祉センター」内に併設され、床面積は1千700㎡で施設全体の29%となっています。

他の併設施設を含めた全体の床面積は、合計6千㎡となります。

図表 3-160 建設年度別整備状況



図表 3-161 耐震化状況



③ 施設総合評価

高齢者福祉センターは、平成21年度に旧市立総合病院の南棟全面改修した鉄筋コンクリート造5階建の新耐震基準の複合施設内に設置しています。

津波浸水予想エリア外に立地していませんが、一時避難所に指定されています。

なお、この施設には、非常電源設備を備えていますが、入浴設備は備えていません。

建物全体にわたる老朽化対策や建物の定期点検などについては、併設の各担当者と連携して進めることが望まれます。

図表 3-162 施設立地状況

施設名	施設立地状況									
	建築年	経過年	建物床面積(m <sup>2</sup> )	一時指定の避難所等	救援補完施設	津波浸水予想エリア外	建物階数	耐震(判定)	非常電源設備	入浴設備
高齢者福祉センター(教育・福祉センター)	平成21年	3	1,696	●	×	×	5	A	○	×

凡例：●＝一時避難所、■＝災害対策支部設置施設、○＝該当施設、×＝該当なし。  
(入浴設備とは、シャワー設備同等以上とする。)

図表 3-163 施設バリアフリー状況及び施設総合評価

施設名	施設バリアフリー状況								施設総合評価					
	建築年	経過年数	車椅子用エレベータ	多目的トイレ	車椅子用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	I 耐震化状況	II 老朽化状況	III バリアフリー状況	IV 稼動状況	V 運営状況	総合評価パターン
高齢者福祉センター(教育・福祉センター)	H21	3	○	○	○	○	○	○	3	3	3	2	2	D

バリアフリー記号：○＝対応、×＝未対応、－＝不要・該当なし、

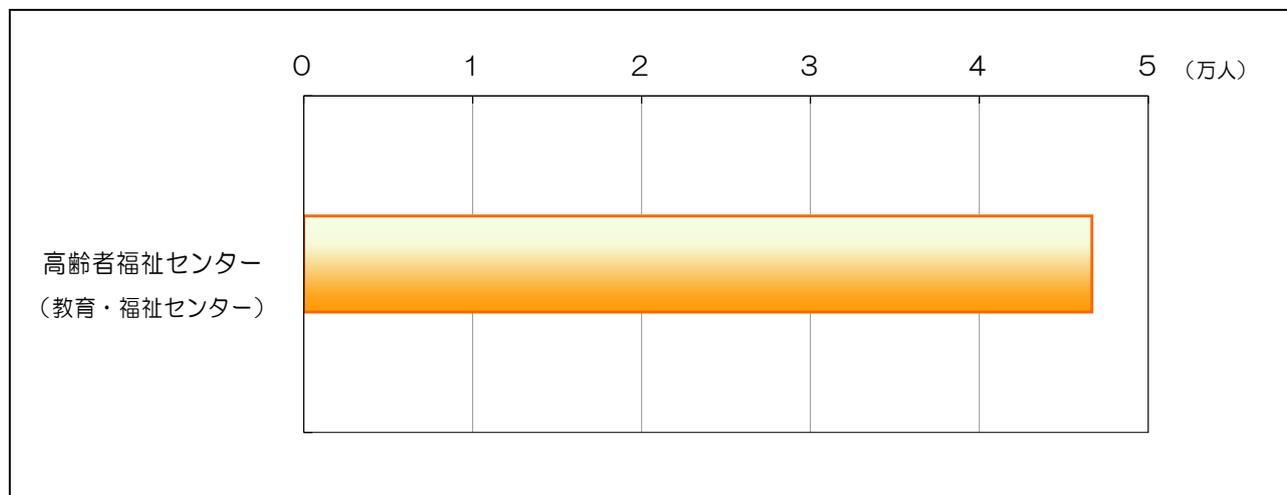
図表 3-164 施設総合評価パターン図

評価	パターンD 稼動 運営
	・稼動率、運営に問題が見られる ⇒今後、稼動率、運営について改善が必要な施設
優先	優先_4 振分基準 パターンA～C以外で IV又はVが2の施設
該当施設	・高齢者福祉センター (教育・福祉センター)
コメント	・事業内容を充実させるなどの検討が望まれます。 ・維持管理費の運営について検討が望まれます。

④ 施設の利用状況

高齢者福祉センターの平成 24 年度の利用者は、4 万 7 千人です。  
1 日当たり 160 人が利用していることとなります。

図表 3-165 施設年間利用者数



## ⑤ 運営状況

高齢者福祉センターは、直営で管理運営を行っており、平成24年度維持管理費は5千万円です。

利用者一人当たりの維持管理費は、1千100円となっています。

図表 3-166 施設年間維持管理費

施設名	床面積 (㎡)	開館日数 (年間)	利用者数 (人)	維持管理費 (千円)	利用者一人当たりの 維持管理費 (円)	市民一人当たりの 維持管理費 (円)
高齢者福祉センター(教育・福祉センター)	1,696	292	46,662	52,534	1,126	301
合計	1,696		46,662	52,534		

## ⑥ 検討の視点

- ・高齢者福祉センターは、5階建の新耐震基準の複合施設内に設置しています。
- ・複合施設であり、建物全体の老朽化対策や定期点検を併設の各担当者と連携して進めることが望まれます。
- ・津波浸水予想エリア外に立地していませんが、一時避難所に指定されています。
- ・この施設には、非常電源設備が備えられていますが、入浴設備は備えていません。
- ・センターの年間利用者数は4万7千人です。
- ・年間維持管理費は、利用者一人当たり1千100円となっています。

## 4 主な施設の状況

### (7) 保健・福祉施設（大分類）

#### 3) 保健施設（中分類）

##### ① 保健施設の概要

保健センターは、市民及び近隣市町村住民の疾病の予防と早期発見を図ることを目的に地域住民に密着した保健予防活動と生活習慣病予防のための各種健診、各種がん検診、特定健康診査などを実施しています。

さらに、夜間・休日における急病者の診療を行い心身共に健康で質の高い生活を送ることができるための医療及び公衆衛生の向上を目的に、苫小牧市と苫小牧市医師会の出資により昭和53年都市再生機構の住宅棟に併設しています。

なお、保健センターに併設していた「夜間・休日急病センター」は、平成21年に隣接地へ新築移転し、独立した施設で機能の充実を図り運営しています。



保健センター

図表 3-167 施設一覧

施設名	住所	建築年	床面積 (㎡)	併設機能			
				窓口 <sup>※1</sup> 機能	貸室 施設	図書 施設	体育 施設
保健センター（健診部門）	苫小牧市旭町2丁目5番4号	昭和53年	2,245	—	—	—	—

窓口機能<sup>※1</sup>：市役所の市民生活部住民課で行っている「窓口業務」の一部手続きができます。

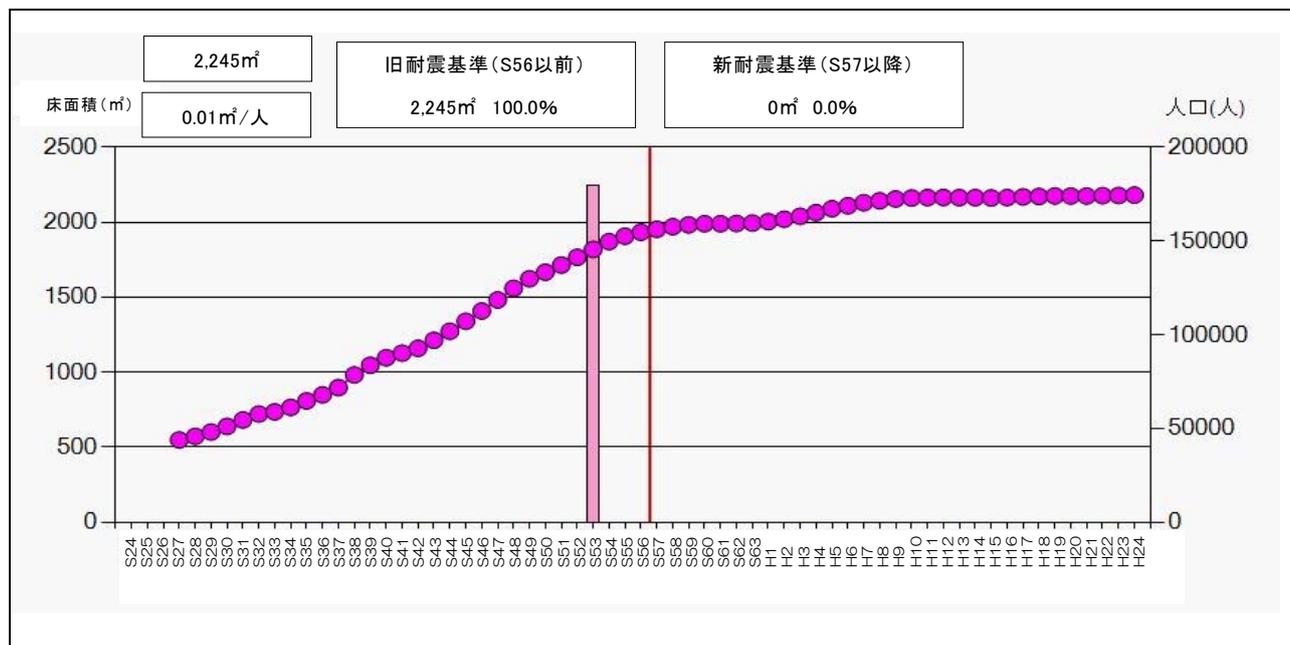
図表 3-168 施設配置図



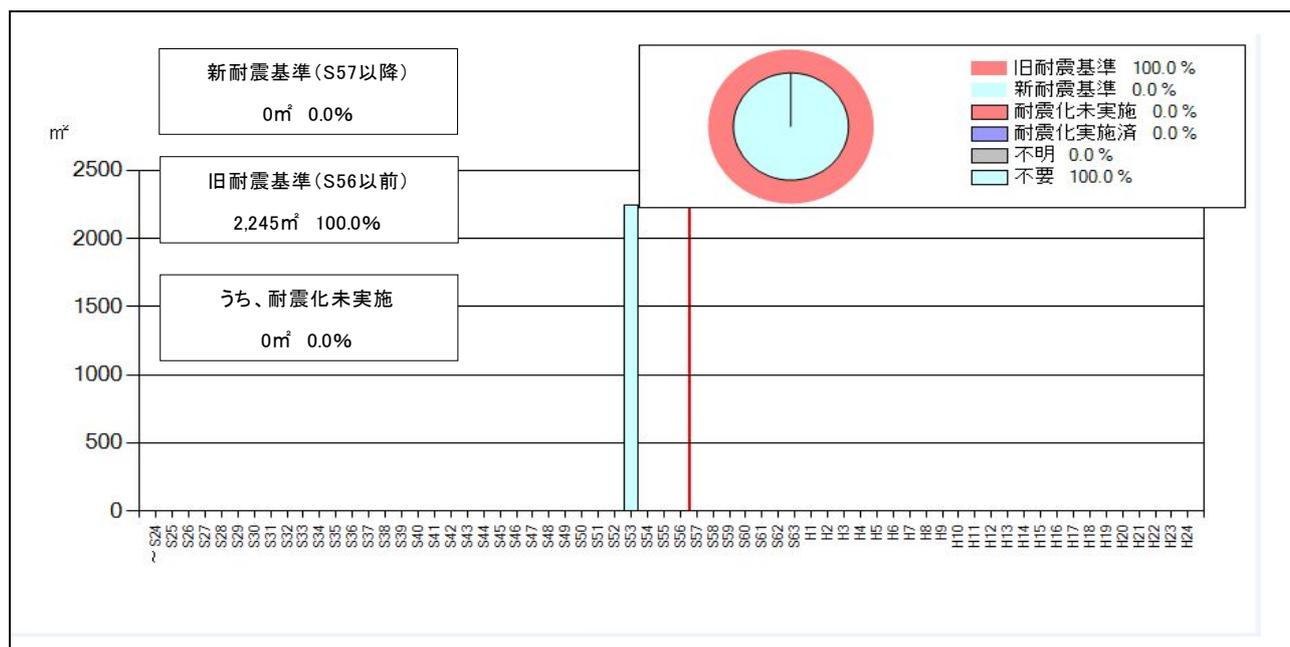
② 建設年度別整備状況

保健センターは、昭和53年11月に都市再生機構の住宅棟に併設され、床面積は2千200㎡です。

図表 3-169 建設年度別整備状況



図表 3-170 耐震化状況



③ 施設総合評価

保健センターは、昭和53年11月に開設した旧耐震基準の建物で、老朽化が進んでいることから平成27年度に隣接地に独立した施設として、建替られる予定となっています。

新施設建設予定地は、津波浸水予想エリア外に選定されていないため、津波対策を含めた災害対策を考慮することが望まれます。

図表 3-171 施設立地状況

施設名	施設立地状況									
	建築年	経過年	建物床面積(m <sup>2</sup> )	一時指定の有無 指定避難所等	救済補完 物資施設	津波浸水 エリア外 予想	建物階数	耐震(判定)	非常電源 設備	入浴設備
保健センター(健診部門)	昭和53年	34	2,245	×	×	×	2	A	×	○

凡例：●=一時避難所、■=災害対策支部設置施設、○=該当施設、×=該当なし。  
(入浴設備とは、シャワー設備同等以上とする。)

図表 3-172 施設バリアフリー状況及び施設総合評価

施設名	施設バリアフリー状況							施設総合評価						
	建築年	経過年数	車椅子用エレベータ	多目的トイレ	車椅子用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	I 耐震化状況	II 老朽化状況	III バリアフリー状況	IV 稼働状況	V 運営状況	総合評価 パターン
保健センター(健診部門)	S53	34	×	×	○	○	○	×	3	2	2	2	2	B

バリアフリー記号：○=対応、×=未対応、- =不要・該当なし、

図表 3-173 施設総合評価パターン図

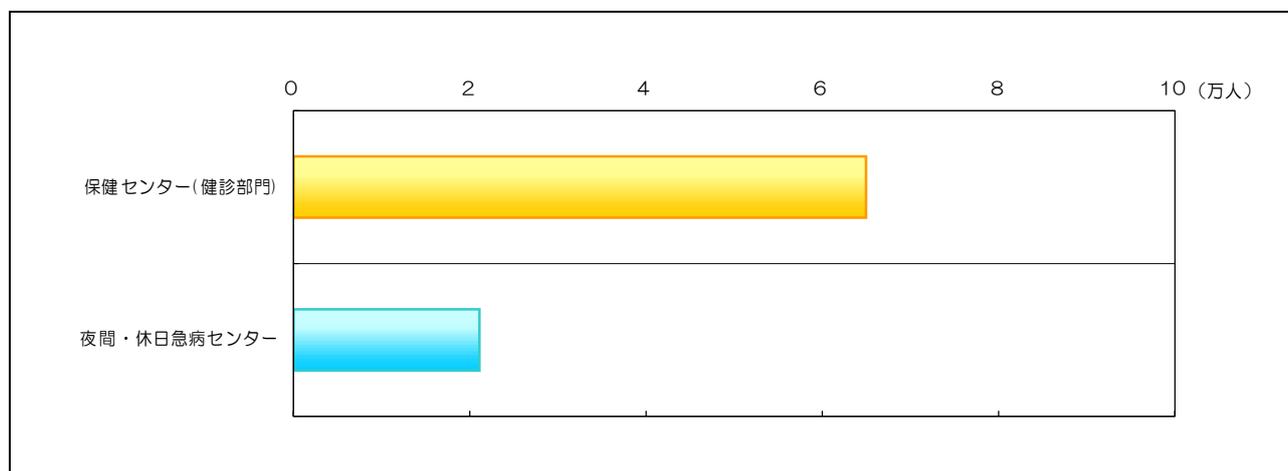
評 価	パターンB <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">今後 老朽化</span>
	・老朽化が進んでいる ⇒今後、老朽化対策が必要な施設
該 当 施 設	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">優先_2</div> <div style="font-size: small;">振分基準 パターンA以外 でⅡ=2の施設</div> </div>
	・保健センター（健診部門）
コ メ ン ト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年4月に建替えをする予定になっています。</li> <li>・運営状況については、夜間・休日急病センターも含まれます。</li> </ul>

④ 施設の利用状況

保健センターの平成24年度の利用者数は、6万5千人です。

また、1日に266人が利用しており、市民の10人に4人が健診などを受けていることとなります。

図表 3-174 施設年間利用者数



## ⑤ 運営状況

保健センターの平成24年度維持管理費は、夜間・休日急病センターと合わせて7億8千万円で、利用者一人当たりの維持管理費は、9千円となっています。

図表 3-175 施設年間維持管理費

施設名	床面積 (㎡)	開館日数 (年間)	利用者数 (人)	維持管理費 (千円)	利用者一人当たりの 維持管理費 (円)	市民一人当たりの 維持管理費 (円)
保健センター(健診部門)	2,245	244	64,937	778,968	9,054	4,466
夜間休日急病センター	607	365	21,095			
合計	2,852		86,032	778,968		

## ⑥ 検討の視点

- ・ 苫小牧市民及び近隣市町村住民の疾病の予防と早期発見を図ることを目的に、また、夜間・休日における初期救急診療事業を兼て設置しています。
- ・ 保健センターの床面積は 2千㎡となっています。
- ・ 保健センターは、旧耐震基準の建物で老朽化が進んでいます。
- ・ 年間利用者数は、244日間で6万5千人、1日当たり266人が利用しています。
- ・ 夜間・休日急病センターは、平成21年度に独立し隣接地に新設移転しています。
- ・ 保健センターは、平成27年度に独立した施設として移転新築予定となっています。
- ・ 新保健センター建設予定地は、津波浸水予想エリア外に選定されていないため、津波対策を含めた災害対策を考慮することが望まれます。

## 4 主な施設の状況

- (7) 保健・福祉施設（大分類）
  - 4) その他社会保険施設（中分類）
    - ① その他社会保険施設の概要

市民活動センターは、社会福祉活動、女性活動その他の市民活動の促進等を図るため、平成6年に女性センターを併設した複合施設として設置しています。

また、健康支援センターは、高齢者から子どもまで多世代の健康支援と健康相談や予防指導・保健指導等を行い市民の健康の増進を図るため、平成21年度に旧市立総合病院南棟を改修した「教育・福祉センター」内に設置しています。



図表 3-176 施設一覧

施設名	住所	建築年	床面積 (㎡)	併設機能			
				窓口 <sup>※1</sup> 機能	貸室 施設	図書 施設	体育 施設
市民活動センター	苫小牧市若草町3丁目3番8号	平成6年	3,110	—	○	—	—
健康支援センター（教育・福祉センター）	苫小牧市本幸町1丁目2番21号	平成21年	1,219	—	—	—	—

窓口機能<sup>※1</sup>：市役所の市民生活部住民課で行っている「窓口業務」の一部手続きができます。

図表 3-177 施設配置図

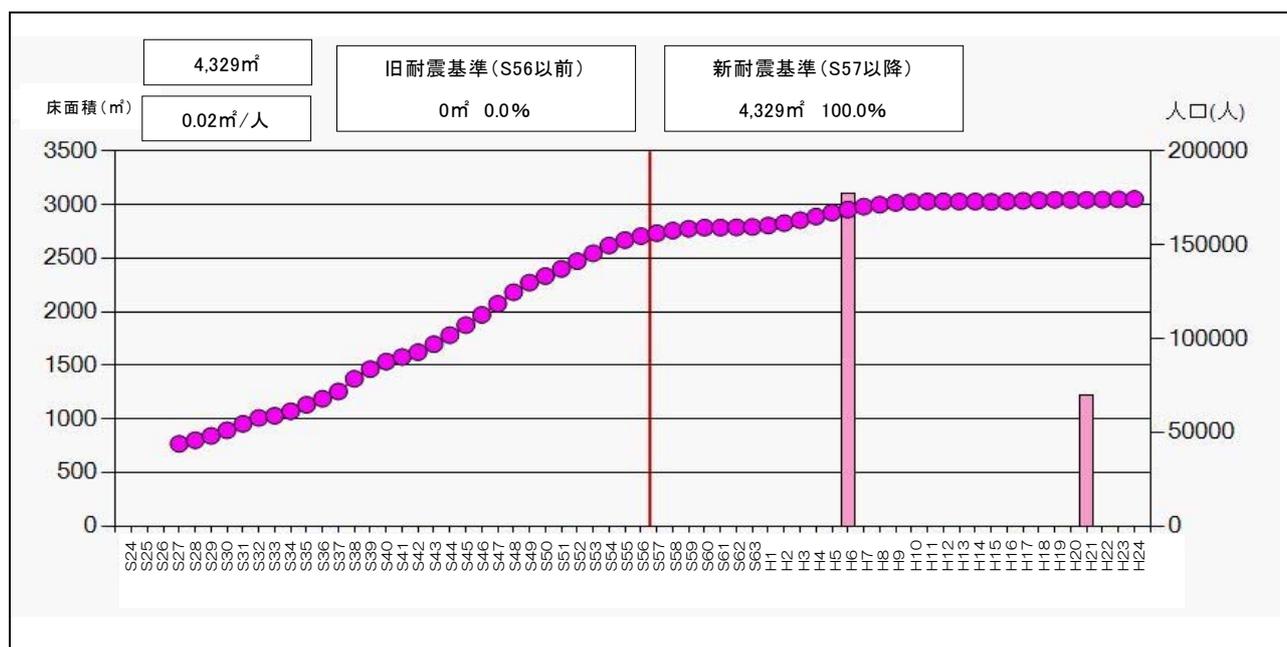


② 建設年度別整備状況

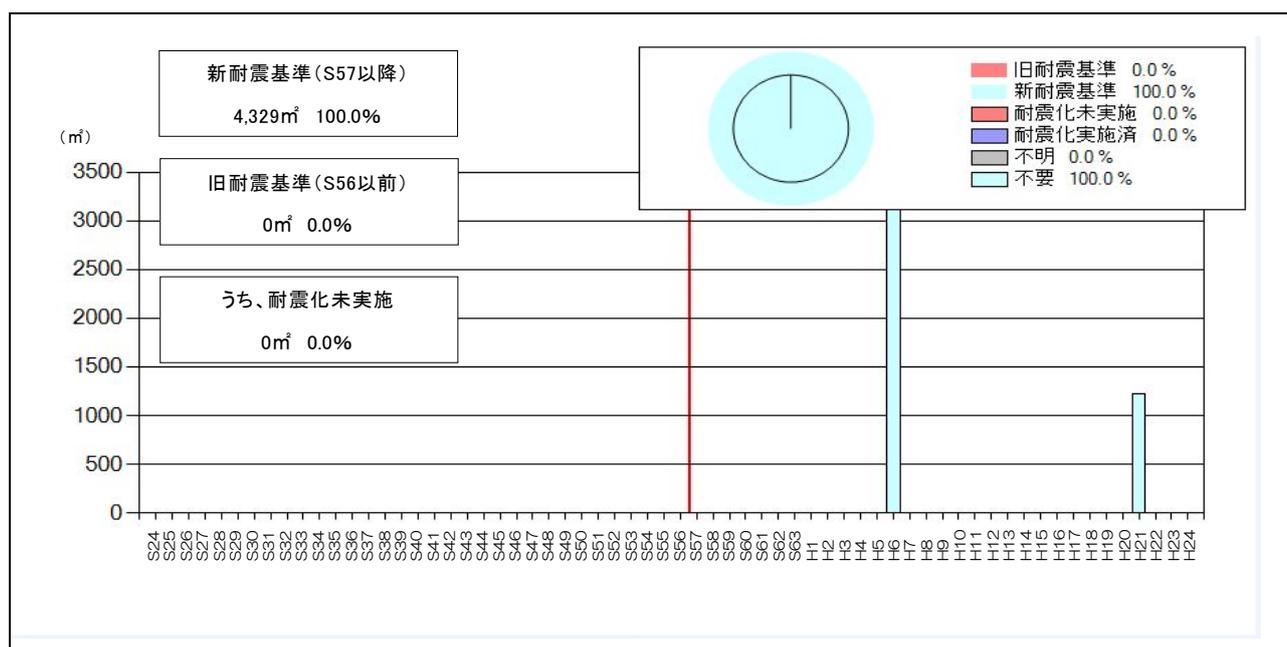
市民活動センターは、女性センターを併設した複合施設で床面積は、3千100㎡です。また、健康支援センターは、「教育・福祉センター」内に併設され床面積1千200㎡となっています。

市民活動センター及び健康支援センターは、共に新耐震基準の建物です。

図表 3-178 建設年度別整備状況



図表 3-179 耐震化状況



③ 施設総合評価

市民活動センター及び健康支援センターは、一時避難所として指定されていますが、津波浸水予想エリア外に立地していないため災害時の避難活動等について、対応が必要となります。

なお、両施設とも非常電源設備は整備されていますが入浴設備は備えていません。

また、市民活動センターは、築18年が経過していることから老朽化対策などの対応が望まれます。

健康支援センターは、施設全体にわたる老朽化対策や建物の定期点検等については、併設の各担当者と連携して進めることが望まれます。

図表 3-180 施設立地状況

施設名	施設立地状況									
	建築年	経過年	建物床面積(m <sup>2</sup> )	一時指定の有無	救補物資施設	津波浸水予想エリア外	建物階数	耐震(判定)	非常電源設備	入浴設備
市民活動センター	平成6年	18	3,110	●	×	×	5	A	○	×
健康支援センター(教育・福祉センター)	平成21年	3	1,219	●	×	×	5	A	○	×

凡例：●＝一時避難所、■＝災害対策支部設置施設、○＝該当施設、×＝該当なし。  
(入浴設備とは、シャワー設備同等以上とする。)

図表 3-181 施設バリアフリー状況及び施設総合評価

施設名	施設バリアフリー状況								施設総合評価					
	建築年	経過年数	車椅子用エレベータ	多目的トイレ	車椅子用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	I 耐震化状況	II 老朽化状況	III バリアフリー状況	IV 稼働状況	V 運営状況	総合評価パターン
市民活動センター	H6	18	○	○	○	○	○	○	3	3	3	2	3	D
健康支援センター(教育・福祉センター)	H21	3	○	○	○	○	○	○	3	3	3	2	-	D

バリアフリー記号：○＝対応、×＝未対応、－＝不要・該当なし、

図表 3-182 施設総合評価パターン図

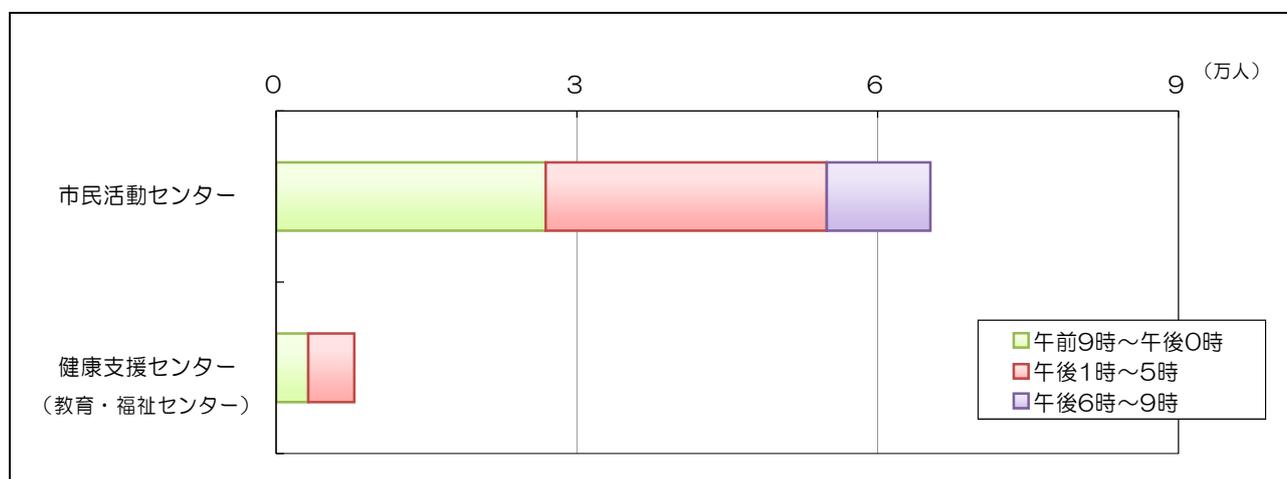
	パターンD	稼動状況	パターンD	稼動状況
評価	・稼動率が低下している ⇒稼動率の改善が必要な施設		・稼動率が低下している ⇒稼動率の改善が必要な施設	
	優先_4	振分基準 パターンA～C以外 でIV=2の施設	優先_4	振分基準 パターンA～C以外 でIV=2の施設
該当施設				
	・市民活動センター		・健康支援センター (教育・福祉センター)	
コメント	・事業内容を充実させるなどの改善が望まれます。		・事業内容を充実させるなどの改善が望まれます。	

④ 施設の利用状況

市民活動センターの平成24年度の利用者数は、6万5千人で1日当たり182人が利用していることとなります。

また、健康支援センターの平成24年度の利用者数は、8千人で1日当たり36人が利用していることとなります。

図表 3-183 施設時間帯別年間利用者数



## ⑤ 運営状況

市民活動センターの平成24年度維持管理費は4千600万円で、利用者一人当たりの維持管理費は700円となっています。

図表 3-184 施設年間維持管理費

施設名	床面積 (㎡)	開館日数 (年間)	利用者数 (人)	維持管理費 (千円)	利用者一人当たりの 維持管理費 (円)	市民一人当たりの 維持管理費 (円)
市民活動センター	3,110	359	65,259	45,514	697	261
健康支援センター(教育・福祉センター)	1,219	218	7,791	—	—	—
合計	4,329		73,050	45,514		

## ⑥ 検討の視点

- ・市民活動センターは、社会福祉活動その他の市民活動の促進などを図るため、平成6年10月に複合施設として設置しています。
- ・健康支援センターは、高齢者から子どもまで多世代の健康支援と健康教育の充実を図るため、5階建の新耐震基準の複合施設内に設置しています。
- ・市民活動センター及び健康支援センターは、共に新耐震基準の建物です。
- ・両施設とも一時避難所に指定されています。
- ・両施設とも津波浸水予想エリア外に立地していません。
- ・両施設とも非常電源設備は整備されていますが、入浴設備はありません。
- ・市民活動センターの年間利用者数は6万5千人で、一日当たり利用者数が182人です。
- ・健康支援センターの年間利用者数は8千人で、一日当たり利用者数が36人です。
- ・市民活動センターの年間維持管理費は4千600万円で、一人当たり700円です。